

やまびこ

第115号

平成29年 9月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「ライバル」



理事長 落 司 量 則

「敵に塩を送る」という言葉がある。
これはライバルが苦しんでいる時に温かい手をさしのべることをいう。

戦国時代の名将、越後の上杉謙信と、甲斐の武田信玄は生涯のライバルであった。信濃を次第に制圧していく信玄と、北上を阻止しようとする謙信は、川中島で合戦を繰り返していた。一方、信玄は東海地方へも進出を始めた。これを恐れた今川と北条が、信玄の力を弱めようと連携し信玄の領内への塩の輸送を全面禁止してしまったのである。塩は「生命の糧」ともいわれ、水や空気とともに人間が生きていくのに欠かせないものである。味噌も醤油も漬物も作れない。一年以上も続くと国中に病人が増え、兵の士気も落ちてい

た。さすがの信玄も困った。越後の謙信も信玄の窮状を察知していたが、家臣から「今こそ武田を攻めたら」とすすめられても、あえて兵馬を動かさなかった。そればかりか宿敵信玄に次のような書状を送ったのである。

「聞くところによると、北条、今川両氏が相謀って塩を止め君を苦しめているという。これは極めて卑劣な行為である。君と我との争いは弓矢において決するもので米や塩ではない。今から我が国の塩を送る。必要なだけ取られるがよい」。そして日本海側から甲斐に、大量の塩が運ばれた。これが「敵に塩を送る」である。

謙信は信玄の力を認めていた。「隣に強力なライバルがいてこそ真剣に鍛錬に励むことができる。敵に攻め込むスキを与えないよう常に緊張感があるからだ。反対にライバルがいないと、気が緩んで鍛錬は怠りがちになる。自惚れて向上心を失い、年毎に弱っていくのである」。こういった心境だったに違いない。

真のライバルとはお互いを高めあう存在なのだ。

目次

巻頭言……………	理事長 落司 量則	世界陸上……………	濱田 祐佳里	20
「地球似の惑星」水、大気も存在か…	理事 岡 征二郎	ホームステイ……………	上原 志保	20
高校時代を大切に……………	〃 國友 道一	悔しさをバネに……………	笠 富花	21
大人が子どもに与えたいこと……………	評議員 大 山 昇	なんやかんや耐える……………	武田 宗真	22
「痛み」から学ぶ……………	高校一年 守 時 明 信	一学期を振り返って……………	井 上 唯	23
高校生になって……………	〃 酒 井 美 絵	近況報告……………	〃 片 山 步	24
学校生活とかについて思うこと……………	〃 中 村 優 斗	文化祭のこと……………	〃 高 橋 大 地	24
「やる気」……………	〃 山 梨 有 希	今頑張っていること……………	〃 小 林 桜 子	25
不安……………	〃 山 川 達 雄	野球の全校応援……………	〃 〃 四 野 見 祥 子	26
私の選ぶ道……………	〃 有 村 真 優	「俺の中のヒーロー川田利明デンジャラスに」……………	〃 〃 植 木 龍 翔	27
高校生になって……………	〃 宇 田 川 桃 佳	読書感想文……………	〃 〃 高 校 三 年 三 宅 竜 矢	28
この三ヶ月で学んだこと……………	〃 近 藤 玲 海	「最後」の役割……………	〃 〃 青 山 公 士	28
「高校生活」……………	〃 〃 杉 岡 由 香 子	部活引退……………	〃 〃 小 竹 守 花 恵	30
人間失格を読んで……………	〃 〃 黒 田 裕 希	「あと五カ月」……………	〃 〃 佐 伯 吏 咲 子	31
高校に入学して……………	〃 〃 大 月 佳 子	課外活動について……………	〃 〃 〃 産 本 龍	31
Gorila Baseball…高校二年	〃 〃 日 下 侑 希	楽しいこと……………	〃 〃 〃 植 本 圭 祐	34
大人になるために……………	〃 〃 津 本 宥 海	陸上は人生そのものだ……………	〃 〃 〃 杉 岡 大 輝	34
近況報告……………	〃 〃 佐 藤 海 斗	「受験生」……………	〃 〃 〃 小 西 菖	35
二年生になって……………	〃 〃 久 保 田 実 歩	夏期研修会日記……………	〃 〃 〃 夏 期 研 修 会 日 程 表	37
人見知りの受難……………	〃 〃 井 上 彪 馬	夏期研修会感想文……………	〃 〃 〃 夏 期 研 修 会 感 想 文	39
近況報告……………	〃 〃 栗 山 裕 唯	編集後記……………	〃 〃 〃 編 集 後 記	40
友達の一言……………	〃 〃 安 井 絵 里 果			61

「地球似の惑星」水、大気も存在か

理事 岡 征二郎

ベルギーのリエージュ大や米航空宇宙局(NASA)の国際チームの発表によると、「地球から三十九光年離れた恒星の周りに、地球に似た惑星が七個あるのを発見した」と報道した(平成二十九年二月二十三日 山陽新聞)。以下はこの報道の記事を参考にしてその概要を記述する。

惑星の大きさや重さ、温度が地球に近く水や大気が存在して生命を育むことができる地球型惑星の可能性がある。同様の惑星は太陽系外で多く見つかったているが、一つの惑星で七個も見つかるのは珍しい。このチームは南米チリにある欧州南天天文台の望遠鏡を使い、みずがめ座の方向にあって、直径が太陽の十分の一程の赤色矮星(TRAPPIST)を観測した結果である。手前を天体を取り過ぎる際に起こるわずかな明るさの変化から少なくとも七個の衛星が回っていると結論付けた。

赤色矮星は恒星の中でも特に温度が低い。見つかった惑星との距離は、太陽と地球の距離の百分の一から十六分の一で、表面温度が太陽の半分以下のため、どの惑星も水が

液体で存在する程度に温暖とみられる。特に内側から四、六番目の惑星には海や大気圏が存在する可能性があるとのこと。かつて地球上の生命の誕生が原始海洋の中でコアセルベートとして誕生して以来、長い時間をかけて徐々に進化し続け、現在の地球上の生物種が作り上げられてきたことを想起させられるのである。

地球上においては一部で戦争が危惧されている現在、科学の進歩による宇宙の一部に見られた新しい生命の誕生の可能性への期待は、私達に夢と希望を与えてくれるものである。

(注) 太陽系外惑星 太陽系の外にある恒星を回る惑星のこと、一九九〇年代にはじめて発見された。主に岩石でできていて恒星からの距離が近すぎず遠すぎない場合は、液体の水が存在して生命を育むことができる地球型惑星の可能性がある。

(元旭川荘療育センター児童院顧問)

高校時代を大切に

理事 國 友 道 一

かつて、ある生命保険会社が社会で働いている人に子どものあるや若いころに戻れるとしたら、どの時期に戻りたいかという調査をしたことがありました。最も多かったのが「高校時代」でした。その理由として、高校入試を終え一時的であるにせよ解放感に浸れること、自分で判断し行動できる範囲が広がること、生涯につながる友情が育まれることなどが考えられます。しかし、高校時代のすばらしさは後になって気づくことが多く、高校生の時には案外気づかないものです。高校時代の三年間はあつと言う間に過ぎ去ってしまいます。この貴重な三年間を悔いのないように過ごしてもらいたいものです。

京セラの創業者で、日本航空再建の指揮を執りわずか三年でV字回復を成し遂げた稲盛和夫氏は、人生の結果は「情熱」と「考え方」と「能力」の三要素の掛け算で決まると言っておられます。足し算ではなく掛け算ですので一つでも欠けるとすべてが零になってしまいます。これら三つの要素の基礎を築くのが高校時代です。

に固執しがちですが、多くの異なった意見に接して柔軟な発想を身に付けることが必要です。論語の言葉に「学べば則ち固ならず」がありますが、その通りです。ここに挙げた二つの例だけに限らず、自分の思い通りに事が進まない場合であっても常に前向きな姿勢をもって努力を続ける人にはプラスの結果がついて来るものです。「考え方」次第で結果に大きな差が生じるものです。

最後は「情熱」です。目標を決め自分の取り組んでいることに熱い情熱を抱き、懸命に努力する姿勢を養うことが必要です。高校時代はこれからの長い人生の基礎を築く時です。博く学び、疑問に思うことを解決し、自分の考えをしっかりとまとめ、熱意をもって一步を踏み出してみることでです。例え失敗をしても、そこから多くのことを学び、少しずつでも前進をすることができます。

最後に一つ、多くの人と楽しく快適に過ごすためには一人一人が周りの人に対して「思いやりの気持ち」を持つことが必要です。簡単なように思っても実行するのは非常に難しいことですが、いつもその気持ちを忘れないようにして充実した高校生活を送ってください。

(公益財団法人特別史跡、旧閑谷学校顕彰保存会理事長)

「能力」については、まずはしっかりと努力し学力だけではなく創造力などさまざまな能力を身に付け自分の可能性を少しずつ高めることが必要です。論語の中に「今、女(なんじ)は画(かぎ)れり」という言葉があります。自分はこのままでかと思わないこと、行なう前から自分の能力に見切りをつけないことが大切です。能力は無限なのです。次に「考え方」です。これが人生の成否を決める最も大切な要素であると思います。例えば失敗を例にとってみます。失敗をした時に言い訳をしたり、失敗の原因を他人のせいにしてその場を取り繕うことをしている人は何度も同じ間違いを繰り返します。しかし、失敗と正面から向き合えば、失敗の原因を探り当て次に生かす姿勢をもつ人は二度と同じ失敗を繰り返すことはありません。むしろ失敗から多くのことを学びます。まさに「失敗は成功の基です」。同じ失敗であっても、失敗に対する考え方一つで大きな違いが生まれます。次の例は、自分とは異なる意見に接した時の態度です。自分とは意見が違っても相手との意見を無視してしまうか、または考え方が違ってもまずは相手の話に耳を傾け共感し、自分の考え方をもう一度見直してみるかです。何も相手の意見に同調する必要はありません。同じ事にも様々な異なった見方や考え方があるということを知っただけでも大きな収穫です。とかく人間は自分の意見

大人が子どもに与えたいこと

評議員 大山 昇

幼いころの我が家は、口数が少なくまじめにこつこつと仕事をする父親と人のためには誠心誠意やってあげるとどちらかといえば厳しい母親と兄弟で構成されていた。会社の社宅住まいで決して裕福とは言えない生活だったが、結構思い出は数多くあり今でも鮮明に覚えている。時代が反映されていて、とにかく近所に遊び友達は世代を超えて数多く住んでいた。遊びの工夫もその時に学んだように思う。山を基地にすること、広場や家の周りで皆とすることなどである。どれもこれも楽しくて、時間を忘れて遊んだ。しかし、玉野高校玉校舍(今の玉野商業高校)と隣接の大仙山の大火は忘れられない悲しい出来事だ。山の思い出が消し去られる大惨事になった。今でも山や学校を見るたびに想い出される。また、運動会のシーズンになると社宅の周りを走るリレーがその当時のメインイベントだった。時には、独楽を回しながらのものもあったが、私の地区が小学校の地区対抗リレーで毎年良い成績を収めていた原動力になっていたのは確かである。私たち子どもを大きな視点で

遊ばせてくれた近所に住んでいた大人にとっても感謝している。私の両親もその大人たちの一員であり優しきで育ててもらった思い出はいっぱいある。

反面、特に母親から教えられたというか悟らされたことで忘れられないことがある。その当時入院していた母親に食事代としていくらかのお金をもらっていたのを私は勝手に別なことに遣ってしまい、一時帰宅していた母に「腹減ったご飯は？」と言うと、「ご飯代は渡してるじゃろう！今夜はご飯はないよ。」との生涯忘れられないカウンターパンチをもらいました。母の入院もあり、父や兄弟も苦勞して耐えているときに「自分は何をしているのか。」と悔やまれてなりませんでした。空腹に耐えていたときに届けられたおにぎりは今でも忘れられません。

われわれ大人は、子ども達に何を与えれば良いのか。一つは大げがをしないように見守り創意工夫の精神を養わせること。大人が細かく口出しをしなれば、子どもはお互いに少しずつピンチに陥ったときにどうすればよいのかを身につけていくものだと思う。さらにもう一つは、深い愛情をもって子どもに接し、苦難の道を与えること。耐えることを学ぶことにより、辛抱強い粘り強い子どもが育つのではと思っている。自殺で尊い命を自ら断つ子どものニュースを多く聞くようになった。こういうニュースを聞くと、

すぐに車椅子に乗せられ保健室へ。応急手当を受け、岡大附属病院へ搬送された。しかし、そこで待っていた医療現場に驚愕。四十分も待たされた挙げ句、知らされた案内は「すべての外科医が昼食で席を外している。」ということだった。救急の外来現場を垣間見た気がした。その後、僕は父の車に這い登り、地元の整形外科を受診した。結果は、上前腸骨棘裂離骨折という診断で、全治一ヶ月半。歩けるようになるまで、松葉杖をうまく使い、安静を保つよう指導された。

学校生活に慣れたら、部活動に汗を流そうと考えていた。しかし、思うように動かない体で、通学電車、教室移動等、階段の多さに四苦八苦していた。怪我をしたことで、クラスの不気味な先生方の動きを観察することができた。多くの人に声をかけてもらい、これからの仲間作りに役立った。自分の居場所や、目指すべき道を見据え、どんな自分を見てもらいたいのか、考えるきっかけになった。

八月初旬には富士登山に参加し、仲間と協力することや自分の身体の限界に挑戦することができた。夏休みは、補習や朝日祭の準備で忙しくなりそうだが、自分が輝ける場に積極的に参加し、充実した高校生活を送れるよう努力したい。

この度、八正会に入会させていただき、他校との交流、

子どもに与えるものを奪っているのは大人かもしれないと思ってしまう。残念！

(元玉野市立東兎中学校校長)

「痛み」から学ぶ

岡山朝日高校一年 守 時 明 信

高校での生活は、中学校とは大きく変わり、決められた時間の中をせわしなく動き回る。通学に二時間、学ぶことは何十倍。予習の仕方や要領の良さが、一日の流れを左右する。

クラスの雰囲気や仲間関係もわかり始めた矢先、突如、僕の身体を激痛が襲う。その日は、学校全体でスポーツテストを実施していた。僕はやる気満々で、五十メートル走のスタートラインに立った。出発の合図とともに勢いよく飛び出した。中三以来の五十メートル走。快調にスピードに乗り半分を過ぎたあたりで、股関節付近に「ゴキッ！」という音とともに痛みがはしる。何とかゴールまで辿り着いたが、脚が思うように曲がらない。自力で歩けない僕は、

社会人の先輩方に触れ合う機会を作っていたいただき感謝しております。三年間の活動を通して、自分を磨いていきたいと思います。最後に、この会を笑顔で卒業できるように、日々精進しなければと心を新たにしました。

三年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

高校生になって

就実高校一年 酒 井 美 絵

中学を卒業して高校生になった今、改めて思ったことがあります。それは、中学校生活と高校生活の違いです。まず、勉強の面です。内容はもちろん中学の時より難しくなっていて、覚えることもたくさん増えます。なので、家庭学習を大切にし、予習・復習をきちんとしなければ授業についていけません。また、板書も黒板の文字をただ写すのではなく、先生が口頭で言ったこともメモをとるようにしています。一学期は、中学の復習もあったのでなんとかついていけてましたが、二学期からは高校からの内容になるので、難しくなります。授業についていくためにも、予習・復習

を欠かさずしたいです。

次に友達についてです。最初は友達がたくさんできるか不安でしたが、すぐにクラスに馴染むことができました。このメンバーで体育祭や文化祭をするのがとても楽しみです。

ある日、先生が

「進級する時、クラス替えをしたくない、もっとこのメンバーでいたいと思えるようなクラスにしないさい。」

と、おっしゃっていました。その先生の言葉の通り、みんなでたくさんさんの思い出を作り、最高のクラスにしたいです。

三年間の高校生活。勉強や部活動も頑張りながら、有意義に過ごしたいなと思います。そして、大学に進学し、将来の夢である養護教諭になれるよう頑張ります。

学校生活とかについて思うこと

岡山朝日高校一年 中村優斗

高校生活（卒業まで）を期間という見方で九つに分けてみると、だいたいその一つ目が終了してしまった。残り八

つである。同じ見方で小学校の時は十八、中学校の時は九つそれぞれ経験したが、今回はその体感速度が大きい。二倍速くらいに思える。

僕がこんなにも時のことを意識している訳は、成績が芳しくないからだ。中学生の時には勉強の習慣が無かったのだ。しかも恥ずかしながら宿題もきちんと出していなかった。中学はそれでも大丈夫だったと思うし、周りの友人もそんな感じだった。だけど現在は、周りの友人は、宿題出すのは当然という認識の持ち主ばかりだ。そんなギャップにも少々苦勞している。少し話が逸れたが、要は、成績がガタ落ちしてあまりの不芳さに劣等感を感じているということだ。

悩んだりしている暇は無い。こんなことを母から言われるし、事実だと自分も思う。だがその事実も重くのしかかってくる。九月か十月頃には文理選択があり、決断を迫られることとなるだろう。その時が来るのが怖い。どちらを選みたいと思っているとかの詳細はここには書かないが、かなり迷って悩んでいる。様々な考えや思いが生じ更にそれらが、新たな迷いや悩みを生む。だが、まあ今は勉強をちゃんとするしかないのかもしれない。どちらを選んだとしても明るい未来が待っているとは考え難いだから、今の学力では。

「やる気」

岡山朝日高校一年 山梨有希

「なんかやる気が出ない」日が増えていた。中学校ではやった分だけ結果が出たから、勉強するのが楽しかった。でも高校に入ると、何をやっても中途半端で、結果が追いついてくれやしない。私は割とまじめに取り組む方なので、小テストや授業中の発言で失敗すると、いちいち反省して落胆し、「自分はなんでこんなに頭が悪いのだろう」と常に思うようになっていった。しかし、こんな考え方で、成長できないと思い、少し自分の考え方について思い直してみた。

分かった事は、私のやる気が出なくなった理由は失敗する度に自分を低く見積もってしまう、「自罰傾向」にあったということだ。笑って済むことまで深刻に考えてしまう。では成功する人は何が違うのか。

あるインタビューで、タモリさんが「反省しない」と言っていたそうだ。私は「反省しないと、次にいかせないじゃないか」と思った。しかし、失敗を反省すると、気が落ち込むし、次回同じようなことがあると、挑戦を恐れがち

になってしまう。いかすのはあくまで良い点であって、悪い点は過去として参考程度に置いておけばいいのだ。

「負け」を味わうことは人生においてこれから先も絶えず起こる。そのときは、そういうこともあると覚悟し、「昔話」にしてしまえば新たな気持ちに切り換えられる。そう割り切ってしまうと、のびのびと自分の羽を広げる下支えになる。

この気楽な心構えは、次のことを解決することもできる。それは、やる気の空回りである。例えばテストや発表があるのに、漫画やテレビのリモコンに手が伸びるなどといったことだ。

このようなことが起きると、自分を責めて悪循環になってしまう。しかし、このようなやる気の空回りは、焦ってあれこれと手を出す、過剰な競争心や、できもしない計画を立ててしまう功名心などからきているともいえる。だから、「負け」を認めてしまえばいいのである。実力を出せて、楽しめればいい、と考えてみる。すると不思議と冷静な判断ができたり、優先順位が見えてくるのである。

こんな事を言っていると、なんだか意志の弱い人になってしまう気がするが、最後までやり遂げる人ほど、断固の間に息抜きを取り入れているものだ。

まじめで、凝り性で、完璧主義な人ほど、不器用で、飽

きつぽく長続きしない。しかし、同時に物事に対して誠実に、責任感に溢れた善良な人だということを言いたい。

私自身やる気を失わない為にも、そのことを念頭において、「疾走する馬」ではなく「牛のように図々しくゆったり」と努力したいと思う。

不安

岡山芳泉高校一年 山川 達雄

『知らない』ことは僕にとって不安なことである。例えばテストの時、見たことがない問題が出題されると、解けないかもしれないと思い、僕は不安になる。例えば旅行の時、行ったことがない場所だと、道に迷ってしまい、帰れなくなるのではないかと不安になる。『知らない』ことを不安なこととでなくするためには、どのようにすればいいのだろうか。

それはとても簡単な方法だ。その方法とは、『知る』ことである。テストの時はテスト勉強をして、多くの問題を知るといい。旅行の時はその場所の地図や道、帰る方法を

調べてから行けばいい。

『知る』ことは簡単なことだ。しかし僕はよく、それを忘れたり、するのを怠けたりしてしまう。これは僕だけではないと思う。テスト勉強をしない人もいれば、地図などを調べ忘れる人もいる。教科書を開けば、相手の病氣や宗教をよく知らないがために、差別をしてしまった歴史がある。だから、『知らない』ことを『知る』うえで大切なことは、知ろうとするだけでなく、それを行動に移すことである。

高校生活が始まった。知らない場所、知らない先生、知らない同級生……多くの『知らない』が僕のまわりにひしめいている。どのような高校生活になるのか、僕はまだ不安だ。これらの『知らない』を知るためには、高校で多くのことを、学び、感じ、語り合うことが大切だ。知るための行動を続けて、僕の高校生活を不安なものではなく、楽しいものにしていきたい。

最後になりましたが、八正会の皆様、これから三年間よろしく願います。

私の選ぶ道

岡山一宮高校一年 有村 真優

一学期があつという間に終わり、学校生活にも慣れ始めた。一宮高校は課題が多いと中学校の先生に伺っていたため覚悟はしていたが、毎日課題に追われる日々正直減入ってしまった。そのような中で、一つの分岐点ともいえる「文理選択」が迫ってきた。これは、将来どのような職に就きたいのかが大きく関わってくる。また、それに伴って行きたい大学を決めなければならぬ。周りの友達もほとんど大学を決めているし、先生方も一年生のうちに決めたほうが良いと言われるため内心少し焦り、私も将来の夢と行きたい大学を決めようと色々調べ始めた。私は幼い頃から、保育士という職業に憧れていた。そのため保育士になることが将来の夢だった。しかし、小学五年生の時に私は肺炎で一週間ほど入院した。たった一週間ではあつたが、私はその時、看護師の方々の優しさに触れた。小さな心遣いが私の不安な心をとかしていった。そのような姿にもまた憧れを抱くようになった。そのため、この二つの夢が叶えられる職業を探すことにした。すると一つ私が最

もやりたかったことができる職業を発見した。それが「保育園看護師」である。私は大学で看護についての見聞を広め、いずれ保育園だけでなく病院でも働き、病気で苦しんでいる子どもたちの心に寄りそえる看護師になりたい。まずは第一歩として志望大学に合格することを目標に必死に勉強に打ちこみたい。そして、この夢が叶えられた暁には、精一杯務めを果たすことによってこれまで支えてくださった多くの方々や地域社会に恩返しができると思う。これが今の私の選ぶ道だ。

高校生になって

倉敷青陵高校一年 宇田川 桃 佳

高校に入学して四か月ほど経ちました。この四か月間とはとても長く感じたし、同時にあつという間にも感じました。今回は高校生になってから思ったことを書きます。勉強については、周りのみんなは頭が良くて「私はこんなところに居ていいのか?」とか「進学先を間違えたかもしれない」と常々感じます。何にせよ、入学式の次の日に

担任の先生から「あなた達は今、受験勉強から解放されて遊びたいかもしれません。しかし、あなた達は三年間受験生なのです！」と言われたほどです。それはさておき、入学してからこれまでに数々のテストを受けてきましたが、どれも結果は芳しくなく絶望的な日々を送っています。しかし、このような結果になっているのも、全て自分の実力不足によるものです。勉強のやり方を変えたり、先生や友達に今まで以上に質問したりして、二学期から巻き返しを図ってみんなに追いつけるように頑張ります。

部活動については、今までと違うことをしたいと思い、コーラス部・茶道部・どくたけ倶楽部（詳しい説明をするとは長くなりますが、簡単に言うと生徒会非公認で活動をしていて国語科の先生方が顧問を務める読書のクラブ）に入りました。（ちなみに中学時代は美術部でした。）三つも入っているため、部活動は非常に充実しています。絶望的な学校生活のなかで、部活動だけは楽しむことができているのです。

青陵には『文武不岐』という理念があります。学問と武道は一体となっており、どちらも厳しい訓練をして人として向上しなければならぬという意味です。「三つも部活動をしているから勉強ができないんでしょ！」と言われるように、どちらも全力で取り組んで結果を残したいです。

数える方が早くなるという悪循環が続きました。私はこの現実から目を背けたいと思うようになりました。

そんな時、八正会に初めて行った時に話されていた言葉をふと思い出しました。

「忙しくて時間がないためにできないというのは明らかに怠慢であって、時間は自分で作るものである。」

勉強が上手くいっていないのは忙しすぎるからだと思っていた私にとって、この言葉はとても心に突き刺さりました。他にも機関誌「やまびこ」に書かれている自分と同じような体験、それを通して学んだこと、前向きな言葉などをみていると励まされるとともに自分はまだまだ考えが甘いなと痛感しました。

今以上にこれからは辛いことに直面する場面が多くなると思います。でもそんな時こそ前向きに考え、時間を有効的に使い、充実した毎日が送れるように頑張りたいと思います。

自分で選んで受験して進学したからには、卒業するとき「この学校で良かったなあ」と思えるような学校生活を送りたいです。

最後になりましたが、八正会の皆様、こんな私ですが温かく見守っていただけたら幸いです。よろしくお願い致します。

この三ヶ月で学んだこと

岡山芳泉高校一年 近藤玲海

私は最初、高校に入学したら部活と勉強の両立を頑張る、キラキラとした高校生活を送るのだと張り切っていました。しかし、実際に入学してみると、思い描いていた高校生活には程遠い、挫折の日々でした。

私は中学まで、部活では部長として一番を取り続け、勉強もそこできていました。しかし、高校の部活では自分より上手い人ばかりで、毎日実力の差を感じ、自分に自信がなくなっていました。また、勉強では予習や課題の量が増え、睡眠時間もあまり取れなくなり、成績は下から

『高校生活』

清心女子高校一年 杉岡由香子

清心女子高等学校に入学をしました。中学校と比べて、高校では予習と復習が授業をするにあたってとても重要な役割を果たしているのだと強く感じました。予習・復習・課題をしていると、寝るのは大体深夜の一時頃になります。テストの教科の数も増えてさらに寝る時間が遅くなり、背が伸びなくなると心配しています。頭が良くなると背が高くなると信じて頑張ります。

私の高校はキリスト教の学校です。そのため他の高校とは生活スタイルが少し異なる部分があります。

学年始めは、神父さまが来られて『年始めのミサ』をします。『ミサ』とは、聖体を受け神に感謝する祈願を行うことです。聖書の一節を読んだり、聖歌をうたったりします。今まで経験をしたことのないことをたくさんしたので最初は驚きました。終礼の時もお祈りをします。月ごとでお祈りが変わるので、様々なお祈りを覚えめました。そして、毎週水曜日には『霊的講話』という、校長先生が聖書の一節について解説をしてくださり、そのことについて自分た

ちの考えを書き留めるといふことをしています。

私はマリア会という部活に所属しています。マリア会主に、ボランティア活動をしています。子供たちに勉強を教えたり、一緒に遊んだり、平和について考えるための研修をしたりします。

毎日神さまにお祈りをしているので、心が洗われてすっきりした気持ちになります。人として大きく成長できる場所です。三年間生活を楽しくしたいと思います。

人間失格を読んで

岡山工業高校一年 黒田裕希

私がこの本を読むのは、これが三回目です。初めに読んだのは、この本を買ったとき、中学一年生の時です。私はその時入院中で、とても暇でした。その時、病院の売店でたまたま目に留まり、暇つぶしになるかと思って、この本を買いました。読み終わった時、その時はただ暗いイメージの本だと思いました。

しかし、何か感じるものがあって、でもそれが何なのか興味があったため、洋画家の画塾に通います。そこで堀木という男に出会い、酒、たばこなど決して良い事ではないことを教わります。『普通の生活』というものに恐怖を抱いていた主人公は、その恐怖から逃れるため、心地良い『普通でない生活』にどっぷりはまっています。その後、色々なことに疲れた主人公は、二度自ら命を絶とうとしましたが、失敗してしまいます。主人公は再び酒と女に溺れ、体は衰弱し、吐血するまでに至ります。その痛みから逃れるためモルヒネに手を出し、モルヒネ中毒となります。最終的に精神病院に入れられてしまい、「人間失格」の烙印を押され絶望するのです。

私にとって、家族とはかけがえのないものです。しかし、主人公である彼にとって家族とは、何を考えているかわからない、身近にいる最も恐怖を感じる人間、という存在でしかなかったようです。衣食住が満足しているから幸せ、というものではないように思います。彼には、自分をさらけ出せる存在が欠けていたのではないかと思います。

彼の父親はとても忙しい人で、ほとんど家にはいませんでした。それに、とても厳しい人でもありました。愛がなかったとは思いますが、人よりも感情に敏感な彼にとって、父親の愛は薄く感じられたのではないのでしょうか。

自分をさらけ出せる存在であるツネ子と、生まれて初め

が、分かりませんでした。

気になってもう一度読み返して見たのは、中学二年生の時でした。一年生の時よりは、何となく分かったような気がしましたが、結局もやもやとした気持ちが晴れることなく、そのまま読み終わってしまいました。

そして今回が三回目、高校一年生です。この機会に感想文を書き、自分の考えを文章としてまとめていけば、もやもやとした気持ちが晴れるかもしれないと思い、もう一度読んでみることにしました。

大体のあらすじは、こんな感じです。

主人公は裕福な家に生まれたため、空腹というものを味わったことがありませんでした。しかし、世の中の多くの人間は、空腹を満たすために労働していると知ります。空腹とは恐怖なのでは、いや、その先に本当の恐怖があるのでは、本当の恐怖とは何なのか。こんなことを考えているうちに、『人間』に対して恐怖を感じるようになってしまい、人と上手く会話することが出来なくなっていました。そんな主人公は、恐怖から逃れるには、自分が道化になれば良いと考えます。心の底では孤独を求めつつも、道化として振る舞う幼少時代の主人公。しかし、その芝居を同級生に見抜かれ、自分の道化が見透かされたことに恐怖を感じます。そして、高校に入るため上京した主人公は、画に

て出会い、愛しました。しかし彼は、そんな風に人を愛するということに恐怖を抱き、自分から愛することが出来ませんでした。彼には欲がありませんでした。何も欲しがらず、したいと思うことも、死にたいということも、生きたいということさえありませんでした。だから、ツネ子に死のうと提案されたとき、気軽に同意してしまいました。

父親から愛を感じる事ができず、愛するということがわからず、人間に恐怖を感じ、信用できなくなった彼。もしも父親がいつも家にいる家庭であったら、もしも父親の愛を感じることができていたら、彼はまた違った生き方をしていたかもしれません。

彼には、愛というものが、結局よくわからないままだったのだと思います。もちろん私も、まだよくわかっていません。しかし、私は家族の愛を感じる事が出来ています。だから私は、その愛にしっかりと向き合って、理解していこうと思います。

この作品について、自分の考えをこうして書き終わりましたが、完全にもやもやとした気持ちが晴れたわけではありません。しかし、何か一つ、自分にとって大事なものを見つけられたような気がします。

高校に入学して

岡山城東高校一年 大月 佳子

高校に入学して四か月がたった。入学当初は同じクラスに知り合いが一人もおらず正直楽しくなかったが今ではたくさんの友達と共に充実した日々を過ごしている。私は城東高校には音楽学類で入学した。声楽(歌)を専攻している。部活動は合唱部に所属している。城東は吹奏、管弦、合唱の音系三部がとても強い。私が所属している合唱部はまさにコンクールシーズンの真っ只中である。OJC(Okayama JOTO Chorus)は例年夏に二つのコンクールに出場する。どちらのコンクールも県大会は一位で中国大会で二位。あと一步のところまで全国大会に出場出来ないのだ。今年も二つのコンクールで県大会ゴールド金賞を頂いた。今は中国大会に向けて必死に練習している最中である。そのため夏休みもほぼ毎日五時間以上練習している。大変だが楽しさの方が大きい。私はこんなにも熱中できるものに出会えてよかったと思っっている。全国大会がかかっている中国大会が刻々と追ってきている。最高の夏になるように全力で頑張りたい。

最後になりましたが多額の奨学金ありがとうございます。これからも日々精進していきます。

Gorilla Baseball

倉敷高校二年 日下 侑希

七月二十三日(日)、マスカット球場で、全国高校選手権大会岡山県予選、第三回戦、倉敷高校対創志学園戦が行われた。私は、この試合に、応援生徒の一人として参加した。結果は残念ながら、二十一で倉敷高校の五回コールド負けだった。

この結果を決定づけたのは、三回裏に創志が十点をとったことだった。私は、このときからもう逆転はできないだろうと、考えていた。しかし、私の席の前にいた野球部のメンバーは、勝てるという希望を捨てず、一所懸命応援していた。その姿を見て、こちらにも応援しなくてはという思いにかられ、最終回では全力で応援した。

この経験は、夏休みの自分の行動に大きな影響を与えている。今までならば、宿題や家の手伝いをする時に、「こ

こまででいいか。」という妥協が少なからずあったが、今ではできる限り何事にも全力で取り組むようになった。

実をいうと、今回の野球応援は全員強制参加だったので、あまり乗り気でなかった。しかし、そのような思いで参加したものが、自分にとって大きく影響を与えた。今後このようなことが起きないとは限らないので、色々なイベントに参加してみたいと思った。

大人になるために

美作高校二年 津本 宥海

僕は、将来立派な大人になりたいと思っています。そのために僕が立派な大人になる上での大切だと思うことをまとめたいと思います。

一つ目は、挨拶です。挨拶はするだけで印象が良くなると思います。また、挨拶をすることで一日頑張ろうと思えます。もっとより良い挨拶ができるように心掛けていきたいと思っています。

二つ目は、目標を立てることです。僕は目標を立てること

とがあまり得意ではありません。そのため、物事に対してやる気が出なかったり、計画性がなかったり、行き詰まったりすることがあります。自分ではしっかり計画を立てようと思ってもできなくてなかなか上手いきません。だから、僕は少しずつできるようにやっていきたいと思っています。

三つ目は、いろんな人がいることを認めるといことです。世の中にはいろんな人がいます。それぞれ過去の経験など、それまでの人生の全てで形成された人格です。人にはそれぞれ「正しい」と思う基準があり、「好き嫌い」もあると思います。だから自分の価値観を押し付けず相手の意見を尊重することが大切だと思います。そうすることで相手のことを理解できる人になれると思います。

このほかにもたくさん大切なことはありますが僕はこの三つを意識して生活したいと思っています。

近況報告

津山高専二年 佐藤 海斗

二年生になりました。専攻分野に応じてクラス替えが行われ、本格的に専門科目の勉強が始まりました。僕は情報システム系に配属され、情報工学を勉強しています。とはいえ、まだ授業では基礎的なことしか学んでいません。

一年生のときは全く勉強せず適当に学校生活を送っていましたが、正月が明けた頃に将来の目標らしきものが決まって、最近ようやく勉強するようになりました。高専のいいところは好き勝手に勉強できるところです（これは高専の悪いところでもあります）。幸いにも春休みの間ずっと暇だったので、微積分と線形代数の基礎を一通り勉強しました。今は、デジタル信号処理に多用されるフーリエ変換と、物理現象の記述に用いられるベクトル解析を勉強しています。特にフーリエ変換はとても面白い分野で、矩形波（デコボコしている波）をサインとコサインと定数だけで表したりします。視覚的に大変楽しいです。自分一人で勉強していくのは決して楽な作業ではありませんが、今のところなんとかやっています。

勉強からは逃れられても、ことばに関する勉強という大枠からは逃れられそうにないです。

二年生になって

美作高校二年 久保田 実歩

高校に入学してもう一年が過ぎて二年生になりました。そして一学期が終わりもう夏休みです。二年生をスタートして思い出に残っていることは三つあります。

まず一つ目は入学式です。新しい一年生が緊張した顔で入場してくるのを見て、私は後輩ができるうれしい思いと、これから先輩としてちゃんとしなければならぬという二つの思いになりました。高校の制服を着なれていない一年生はとても可愛らしかったです。私は部活には入っていませんが、仲の良い後輩ができて休み時間などは、よく話をしています。

二つ目はコース研修です。私は福祉コースに入っていて、長島愛生園にハンセン病の勉強に行きました。そこでは長島愛生園とはどういうものなのか、ハンセン病とは何かを

将来的には計算機科学（コンピューターを理論的な側面から考える学問）を専門的に学びたいと思っています。僕にとって、数学はきわめて重要な学問です。中学校で数学を勉強していた頃はこの学問の意義がよくわかっていませんでしたが、今になってみるとうっすらわかるような気がします。少なくとも、工学系を学ぶ人間にとって数学は必要不可欠な学問です。なぜなら、電氣的、物理的な現象をもっとも正確に表せるのが数式だからです。

数学の他に、漢字検定の勉強もしました。準一級です。思いつきで勉強を始めたんですが、思ったよりキツかったです。漢字の理不尽さかなり腹が立ちました。たとえば「徒」という漢字には「むだ」「ただ」「あだ」、「いたず（ら）」「かち」の五通りの訓読みがあるそうです。さすがにどうかしていると思います。私の学校には漢字をひどく憎んでいる言語学の先生がいて、たとえ公的文书を書くときでも隙あらばひらがなを使おうとするんですが、その先生の気持ち少し分かりました。試験の結果は合格でしたが、当分漢字の勉強はしたくないです。

近況はだいたいこんな感じですが。夏休みは大きな予定がないので、本格的に勉強を頑張ろうと思います。ちなみに英語と自然言語処理（コンピューターで人間の言語を扱うための手法）を主に勉強しようと思っていますので、漢字の詳しく教えてもらいました。長島愛生園では、ハンセン病は治っているのにまだそこで生活をしている人が沢山います。それは、ひどい後遺症が残っているためや、昔ハンセン病になってしまい家族と縁を切れ行く所がない人達です。現在もまだハンセン病の偏見は根強く残っています。その偏見を少しでもなくすためには、私達がコース研修で学んだことを多くの人達に伝えていくことが大切だと思います。

三つ目は実習です。福祉コースでは二年生になると、毎月一週間の実習に行きます。実際の施設に行って利用者の方のお手伝いをさせてもらいます。とても大変ですが、勉強になることばかりなのでこれからも頑張っていきたいと思っています。

人見知りの受難

岡山朝日高校二年 井上 彪馬

僕は、小さい頃から極度の人見知りで、かなり親しい人でないと上手く会話を続けられません。小学生の頃は、六

年間もあつたので、年をおうごとにある程度の人と気軽に話せるようになりました。

一番困ったのは、中学にあがったときです。僕は、中学受験に合格し、地元とは少し離れた学校に入学しました。同じ小学校から進学した子もほとんどおらず、周りには知らない人ばかりでした。当たり前のことですが、人見知りな僕にとっては危機的状況でした。

ある日、部活に入れたかった僕は、勇気を振り絞って当時塾が一緒だった子に部活のことについて尋ねました。それをきっかけに少しずつ友達が増えていきました。

今では、誰でも気軽に話せるようになったとまではいかないですけど、以前よりは人と話せるようになったと思います。僕のこの人見知りは今までもいろんなチャンスを逃してきて、これからも逃してしまおうと思うので、人生を無駄にしないためにも、日々努力しようと思います。

近況報告

岡山芳泉高校二年 栗山裕唯

春に進級してから、早くも四か月が過ぎました。身体的にも精神的にも成長したという実感はあまり得られません。が、肩書に応じた振る舞いをしようと日々努力しています。勉強面に関してもですが、その努力が顕著に出る場は部活動です。進級するともに当然後輩ができ、私の所属する弓道部にも多くの新入生が入部しました。

一年生は私たち二年生と同様に全員が初心者で、しかし一年前とはいえ私たちは弓道を始めたばかりの感覚をすっかり忘れ指導に苦労しました。弓具の扱いからすべてを教えるのは大変でしたが、しかし先輩方から教えていただいたことを思い出しながら説明していくうちに、先輩方の偉大さを多大に感じるようになりました。

私たちよりも少人数であつたのにもかかわらず丁寧に行ってくださった指導が現在の自分たちにつながっているのだ、と思うと、一年生に対しての接し方について改めて考えなおすようになり、まだ今でも手探り状態ではありますが、後輩たちに真摯に接するよう心がけています。

また、私は一時期足を怪我していたこともあり、その時はもっぱら一年生の指導に当たっていました。その中で自分の反省点を多く見つけることができました。その中でユニケーションをとることができました。二週間ほど練習をできなかったのは痛い部分ではありましたが、それでも今後の成長につながるいい機会でありました。

今となつては一年生も弓具の扱い、練習の段取りなどに慣れ、私たちの負担もずいぶん減りました。春よりも自分の練習に集中できる環境ができた今、これまで感じたことや発見した課題点などを見つめ直して、自身のさらなる成長に生かし、上級生らしく頑張っていこうと思います。

また部活動で得た集中力や注意力、部員の皆との間で培ってきた周囲に気を配る能力などを、実生活や勉強の方へも適応させていきたいと考えています。

模試の結果に危機感を覚えつつ、今回の近況報告とさせていただきます。

友達の一言

岡山芳泉高校二年 安井絵里果

私は何をやっても続きません。小さい頃に習っていたピアノも水泳も半年も経たないうちに辞めた覚えがあります。中学の頃に所属していたバドミントン部も他のみんなよりも少し早く引退しました。そして現在、女子サッカー部で活動していますが何度も辞めたいと思つたし、今も何のために私はサッカーをしているんだろうと思つています。確かにすごく楽しいし、この部に入らないと出会えなかった友達もいるし、たくさんのことを学ぶことも出来ました。でもこのまま続けても将来の夢にはつながらないだろうと考えると、私がすべきことは必死こいてサッカーボールを追いかけることではなく、必死こいて勉強することなのではないかと思つてしまいます。

そんな私の考えを友達が一蹴してくれました。

「二度やるって決めたことは最後までやりとおすもんじやろ。」と。ものすごく当たり前のことですが、私が最も聞きたい言葉でした。だから、サッカーも勉強も高校入学したばかりの頃の初心を思い出して最後までしっかりやり

とおそうと思います。

世界陸上

作陽高校二年 濱 田 祐佳里

私は世界陸上が好きです。今年は、ロンドンで行われているため、始まりが夜中でした。リアルタイムで見ようとすると、昼と夜が逆の生活になってしまいます。ここ何日かはテレビをつけたまま寝そうになってしまいそうです。

私が陸上をしていたかという、全く経験ゼロです。部活動も中学校時代に、卓球を少ししていただけで、どちらかというと運動は苦手な方です。なので憧れの意味もありつつ見えています。

私が世界陸上を見ていて一番印象に残っているのは、一万メートルに出場していたモハメドファラー選手です。今大会では、他の国の選手がファラー選手の連覇を阻止するため最初からとても速いペースですすみ、ファラー選手の思うようなレース展開ではありませんでした。その中でも最後に他の選手を振り切り三連覇を成し遂げたファラー

を食べたり、留守番をすることさえありました。本当に楽しく、時間が経つのがあつとゆう間に感じました。

しかし、正直戸惑うこともありました。最初は話していることが速く、聞き取ることができませんでした。日本とは異なった文化のため、食事の回数や量が多かったり、お金の支払い方が難しかったりしました。家族が宗教を信仰していたので、初めて教会に行き、お祈りをしたりしました。

あまり長くはない日数で、とても有意義な時間が過ぎました。これまで学校で勉強したことを生かして、現地で実際に英語を用いたことによって、英語を勉強する意味を改めて考えるきっかけになりました。また、現地の方は「岡山の学生」ではなく、「日本の学生」と思っています。そのため、地元のことを知って、説明する必要があるりました。日本人や日本の魅力を再認識することができ、今回の研修により、もっと日本を好きになれた様だと思います。英語はもちろん、日本の文化について学びたいと思えた高校二年の前半の夏でした。

選手は肉体的だけではなく、精神的にも本当に強いと思いました。また、どんな状況の中でも自分の力を最大限に発揮し観客の歓声に応えるのは簡単なことではないと思います。それができるファラー選手だから、世界中の人を感動させることができるのだと思います。

私もいつかは周りの人を感動させられるような人間になりたいと思います。人を感動させられるのは裏でとても努力している人だけだと思います。それは運動に限らず勉強面でも同じだと思うので勉強面で少しずつ努力していきたいと思っています。

ホームステイ

就実高校二年 上 原 志 保

今年の七月に英語の研修でカナダに行ってきました。初めての地域に一人でホームステイをしました。現地の方はとても優しく、話せるまで待つてくださったり、自分に分かるように少し簡単に言い換えてくださりました。また、親戚や近隣の方との仲がとても良いので何度も一緒にご飯

悔しさをバネに

岡山芳泉高校二年 笠 富 花

六月にソフトテニスの県大会がありました。私は、三年生の先輩と組ませてもらい、芳泉の一番手として出させてもらいました。この県大会で勝ち上がれば中国大会に出れます。私たちは、今までずっと中国大会出場を目標にして練習を頑張ってきました。試合前の何日間かはずっと、テニス中心の生活でした。終礼が終わるとすぐに走ってテニスコートに行き、朝も朝早く起きて朝練に行くという繰り返しでした。試合の日が近づくにつれ、少しピリツとした空気になるのを感じました。そして、なにより、先輩の引退がかかった試合でもある事へのプレッシャーや一番手としてでることへのプレッシャーなど、勝手に感じてしまっていました。なので、正直、精神的にも肉体的にもしんどかったです。ですが、それよりも、中国大会に出場したいという気持ちが大きく、周りの人に支えられて頑張れました。

そして、試合当日。強い相手に敵わず敗者復活戦になりました。敗者復活戦の相手は、以前私たちが勝ったことの

ある三年生同士のペアでした。そのうちの一人は、小学生の頃ずっと一緒にソフトテニスを頑張ってきた友だちでした。なので、少しだけやりにくい相手でした。ですが、勝負は勝負なので全力でやろうと決めました。しかし、三年生の意地とリベンジ精神で更に強くなっているだろうと思えました。いつもは緊張している事を口にしたら余計に緊張してしまうので絶対に言わないようにしているのですが、その日は口に出してしまうほどプレッシャーと緊張がすごく、色んな事をぐるぐる考えてしまいました。しかし、試合が始まると、集中して頑張りました。沢山、チャンスボールをミスしてしまったのですが、最後まで打ち続けました。結果は、負けてしまいました。いっぱい泣きました。普段は、試合で負けても泣くのを我慢するのですが、その試合に負けた瞬間、泣き崩れてしまいました。周りも気にせず泣いてしまいました。自分がでれなかったのももちろん先輩が中国大会出場のために頑張ってきたのをずっと見てきたので、本当に本当に悔しくて涙が止まりませんでした。お母さんや部活の仲間や先生に励まされて、少しずつ気持ちが落ち着きました。

最後に、ペアを組んでくださった先輩と話しました。先輩は、「本当にありがとう。富花は次があるんだから、中国大会に出てね」と言ってくれました。

を掲げました。実際に勉強を始めて半年が経過したので書いておこうと思います。

まず最初の頃は全然楽しくなかったです。特に国語、英語。数学、理科は元々好きだったので楽しかったです。半年経った今、国語は相変わらず叱られますが、以前よりだいぶましになりました。英語はあんまり変わっていません。全体的に少しずつ力がついている気がします。精神の方は変わったと思います。前は、怒られたら結構引きずっていましたが、今は、怒られても次頑張ろうとか、なんとかやるかと思えるようになりました。

とりあえずできるだけ早く課題を終わらせてもっと勉強しようと思います。

あと半年「なんやかんや耐える」の精神で頑張ろうと思います。

一学期を振り返って

倉敷青陵高校二年 井上 唯

高校二年生になってあつという間に四ヶ月が過ぎてしま

小学三年生から今まで続けてきたソフトテニスにこんなに打ちこめるのは高校生で最後だと思うので、九年間の集大成として団体でも個人でも中国大会に出場できるように頑張りたいです。

なんやかんや耐える

岡山朝日高校二年 武田 宗真

八月になりました。あと十日ほどで夏休みが終わり、後期補習つまり授業が始まります。宿題は数学、物理、化学、生物基礎、現代文が全部終わりました。残りは古文、漢文、英語、地理が全て残っています。絶望ですね。まあ去年はほとんどやらず、九月最終日に全部出して叱られたという感じだったのでだいぶまともになったと思います。でもうちは宿題少ないらしんですよ。これで少ないとか他の高校すげえなと、いやほんと尊敬します。

ここから少し真面目な話になります。

僕は前回のやまびこで「人生を勉強に捧げる。」というなんともまあ中二病というか気違いというか、そんな目標がありました。今回は、一学期にあった出来事を振り返ってみたいと思います。

まずは、六月二十日から二十三日まで修学旅行で北海道に行きました。北海道では目的地から目的地までの移動時間が長く、少し苦痛に思うこともあったけど、それ以外は本当に楽しく、また貴重な経験をすることができました。私が印象に残っていることの一つ目は、ラフティングをしたことです。川の流れば緩やかで景色を見ながらオールをこいで楽しめました。また、ラフティングをした富良野付近では、キツネヤリス、シカといった野生の動物を生で見られることができました。二つ目は、小樽、札幌の観光です。小樽では海鮮丼を食べることができました。私が修学旅行のコースに北海道を選んだのも、海鮮丼を食べることが一つ理由であったので本当に満足しました。とてもおいしかったです。札幌では、もいわ山に夜景を見に行きました。昼間の札幌は大都市でありながら、自然と調和された緑のたくさんある美しい街で、夜になるときらきらと美しく輝き、とても魅力的な街だなと思います、好きになりました。四日間、北海道らしさをたくさん満喫することができ、よい思い出となりました。

最後に、今年も青陵祭で書道パフォーマンスをすることが決まりました。今年も二年生が中心となり、部活を盛り

上げていけないといけなので頑張ります。また、夏休みにある合宿では、書道パフォーマンスの完成度だけでなく、自分の書もたくさん磨いてより良い作品ができるよう努力したいです。

近況報告

倉敷中央高校二年 片山 歩

今年も昨年と比べものにならないくらい暑い夏休みだと感じています。外に立っているだけでも汗がでるようになってきました。熱中症には気をつけてください。

ここでは、夏休み前半で起こったことを書かせてもらいます。まずは自分の肌の色。黒いですよね。(笑)もう諦めました…。昨年よりも黒くなっていると自分でも感じます。私はほとんどというか毎日外で活動しているので周りは皆黒くて当たり前のような感じです。まあ、自分はその中でも白いほうなんですけどね…。来年は黒くならないように努力します(笑)

次に、今年も山形でインターハイが行われました。私は、て夏休みもすぐ終わりそうです。二学期に入ると九月の初めにすぐ文化祭なのでとても楽しみです。去年の文化祭は僕たちのクラスはピタゴラスイッチをつくって展示の部で二位になったのを覚えています。すごく大変でした。ピタゴラスイッチが完成したのが文化祭当日の朝で何とか間に合ったけど実際動かしてみると不具合がでてきたりしてなかなか上手くいかずせっかく見に来てくれた人たちに申し訳なかったです。それでもだんだん不具合も少なくなつて完璧にいった時に見に来てくれた人たちも一緒になつて喜んでくれてとてもうれしかったです。すごくいい思い出になりました。だから今年もしっかり楽しみたいと思っています。そのために夏休みの間に体育祭の方の応援団の係を進めています。今年は僕は主に体育祭の方の応援団の係なのでしっかりがんばって自分たちのブロックが優勝できるようにしたいと思っています。

中国大会まで進むことができたのですが、インターハイにはあと少し届きませんでした。三年生の先輩方とインターハイという大舞台に立ちたかった。その思いが今でもあります。来年は必ず自分が行ってやるという気持ちで湧き出てきました。私と同年の子が七種競技で四位になりました。私はその子を見ていて改めて尊敬できるなと思いました。来年は三重でインターハイが行われます。その舞台で勝負することができるようにならなければなりません。その舞台でいききたいです。

夏休み後半は、ほぼ補習です。クーラーの中で涼しい場所でも勉強できるのは有難いことです。しっかりと勉強して自分の進路に役立つことを望みます。まだまだ暑い夏が続きますが、体調に気をつけて頑張りましょう！

文化祭のこと

岡山一宮高校二年 高橋 大地

少し前に二年生になったと思ったのに一学期があつというまに終わり補習とか部活とか文化祭の準備とかで忙しく

今頑張っていること

岡山工業高校二年 小林 桜子

私が高校に入学してから今も一番頑張っていることは陸上競技部の活動です。私は一年生の時には県総体までしか出場できず、中国大会には出場できませんでした。去年は、岡山でインターハイがあり、岡山工業高校の先輩方も多く出場して活躍しているのを見て自分も来年は絶対に出場しようと思ひ、冬季練習やさまざまな練習をしてきました。

そして、二年生になり県総体がありました。私がやっている三段跳という種目は県総体で四位以内に入れば中国大会への出場権がありました。結果、私は県総体で四位に入ることができ中国大会へ出場することができました。中国大会では、私は初めての県外の試合で緊張があつたりして、練習の成果を全て出しきることができず悔いの残る結果になつてしまい、インターハイに出場することができませんでした。

しかし、中国大会では多くの事を学ぶことができとても良い経験になったと思ひました。なので来年こそは中国大会で練習の成果を全て出しきりインターハイへ出場したい

と思います。そのためにも、これからも部活動の練習を頑張っていると思います。

野球の全校応援

倉敷高校二年 四野見 祥子

倉敷高校 対 創志学園

元々、野球観戦に興味がなかった私は、全校応援と聞いて「正直、暑いしめんどくさいなあ。」と思っていました。日ざしが強く、蒸し暑い中、マスカット球場へ行きました。最初は全く気分が乗りませんでした。しかし、隣にすわっていた友達や、野球部の人たちが大きな声で応援していたので、自分も仕方なく応援しました。すると、野球に興味がなかった私でも、楽しくなってきました。ルールはよくわからないけど、バッターの人がボールを打つと「おー！すごい！」と歓声が上がりました。そんな野球部の人たちががんばっている姿を見てかっこよく見えました。そうです。何かをがんばっている人やその姿は、かっこよくみえるんです。

「俺の中のヒーロー 川田利明デンジャラスに」

就実高校二年 植 木 龍 翔

今は、スポーツではサッカー野球などが人気だと思いますが、プロレスはスポーツの中でナンバーワンであると思う。プロレスは野蛮だと思っているでしょうが夢とロマン、男たちの熱い友情や迫力がつまったスポーツである。僕の好きなプロレスラーは川田利明選手である。この選手はプロレス界トップクラスの強さを誇り三冠ヘビー級のベルトの防衛最多回数を持っている人である。そんなプロレス界トップの川田利明選手ですがデビュー戦から引き分けを含み二〇五連敗を喫している。それでもプロレスをやりたい強くなりたいたと努力しプロレス界のトップでなくてはならない人となり三沢光晴、小橋建太、田上明とともに、全日本プロレスの黄金期を四天王の一人として支えた。ジャイアント馬場が亡くなって三沢光晴を中心に全日本プロレスのレスラーたちは全日本を退団していったが川田選手は「俺は馬場さんや天龍さんに強くしてもらった。」と言って全日本に残った。選手が大量離脱後も瀧正信とともに他

自分は、「今、何をがんばっていますか？」と聞かれたら何も答えられないと思います。最近では部活も勉強も中途半端です。このままだと志望校に受かるかどうか危ういです。自分はとてもダメ人間だと感じます。しかし、野球部の人たちががんばっている姿を見て、「自分もがんばらないとな」と思いました。

私の将来の夢は、社会福祉士になって生活に困難な人を支えてあげる仕事に就くことです。そのために、まず、福祉関係の大学に入ることが目標です。

野球部の人たちががんばっている姿を見てこれからがんばろうと思えました。いいモチベーションをもらって、全校応援に行つてよかったなと思いました。私もがんばっている姿を見てもらい、応援される人間になれるように努力したいです。

野球の結果のほうは、十二対二で負けてしまいましたが、三年の先輩方は最後の試合でした。後からツイッターなどでコメントを見ると「負けてしまったけど悔いはなかった」と、書いている人が多数いました。きっと毎日毎日練習をがんばっていたからだと思います。

また来年も野球の全校応援行きたいです。

団体に参戦し順調に勝ち星を増やしていった。

そんな川田利明たちをほっとけないと武藤敬司や小島聡など、たくさんの強さと人気を兼ね備えたレスラーが入団して来た。

そんな中でも川田利明は、自分のプロレスをしてチャンピオンとなり他団体からの挑戦者たちや同団体の挑戦者たちを退け、十度の防衛に成功、この記録は未だ破られていない記録だ。ベルトを失ったあとはフリーとして他団体に参戦してはベルトを取ったり、チャンピオンカーニバル優勝などといった、輝かしい成績を残している。二〇〇九年永遠のライバル三沢光晴が試合中バックドロップをくらって亡くなった。川田利明は、足利工大付属高校、そしてプロレス界でも先輩の三沢に憧れ目標としてきた。しかしいなくなつた今、プロレスラーを休業している。三沢光晴死後から今現在まで東京にある麵ジャラスKという名でラーメン屋をやっている。僕も行ったことがある。僕は川田利明の生き様が好きだ。二〇五連敗しても折れずにプロレス界のトップ選手になって記録にも記憶にも残る男になつたところだ。僕も川田利明のように二〇五連敗してもあきらめずに努力しトップにはいあがりたいと思う。

読書感想文

岡山東商業高校三年 二宅 竜 矢

今回読んだ本は、図書館革命という本で、この本は有川浩さんが書いた図書館戦争シリーズの最後の本です（別冊除く）。

この本のあらすじは、原子力発電所を襲った国際テロがあり、そのテロが人気作家の当麻蔵人という人が書いた本の内容とテロリストのした行動が似ていたことから良化隊の影がせまる。はたして当麻蔵人を守れるのかというのが内容です。

メディア良化法がテロ特措法によって、憲法を違反するような表現を取締るでも本の中の人たちは関心のない人は関心がないそんな問題です。

当麻の警護を主人公がいる堂上班が受け持ち、図書隊を率いる司令稲嶺司令の家で隠れることに、そこでも敵の良化隊の隊員の襲撃があり、そこへ稲嶺司令の乗っている車いすがありその車いすの秘密が明らかになったりそして車ごとコンテナで空輸もしたりするすごい作戦もあったりします。主人公のいる図書隊の特殊部隊ライブラリー・タス

の球技大会、最後の文化祭など、なんだか感慨深い。なかでもやはり「最後」の試合というものにはいろいろと感じるところがあった。

私は小さい頃からやっていたいいわゆる経験者というやつで、中学時代は中学から始めた人たちより試合にでる機会も多く、恵まれていたが、それがだめだったのであろう。私のわるい癖がでてしまった。きつい練習はつい手を抜いてしまい、体格に恵まれていないというのもあり、どんどん下手になっていき、とうとう中学最後の試合にはでることができなかつた。私はそれが悔しかった。そこで、高校でも続けて絶対試合にでて、チームの力になってやると決めた。

私は勉強と両立のできる普通科高校に進んだ。バスケットは毎年県ベスト16くらいの成績で、そこそこの強さだった。ちなみに中学の頃は県ベスト4だった。ここなら自分でも試合にでれると思った。しかし、入学当初はひたすら筋トレ、三年生が引退しても自分は控えチームだった。

焦り始めたそんな頃、顧問の先生に救われた。その先生は今まで出会った中で最高の先生だった。人柄もよく、生徒のことをよく見てくれて、だめなところはしっかりと叱ってくれる人だった。私は先生のアドバイスにより自分のプレイスタイルいわば長所を確立してき、だんだんとレギュ

クフォースの隊長が戻ってきて作戦がもっと過激になります。テレビの報道により日本全土の注目を集めることに。

そして当麻の裁判の日、豪雨の中堂上班は当麻の警護にあたり、途中で良化隊員たちの妨害があり班がバラバラに、そして主人公一人で当麻をつれてレンタカーで大阪へ。

携帯も使えない中、郁は電報で暗号をつくり途中で良化隊員に見られてもいいようにし当麻は大阪のおばちゃんたちに大変身をさせられてさいごまで、展開が読めずおもしろかったです。と思つたらエピソードでは、すこしびっくりしました。

僕は最初から最後まで読んでいておもしろいと思いました。

「最後」の役割

岡山城東高校三年 青山 公 士

先日、小学四年生から約八年間続けてきたバスケットボールが終わった。高校三年生というのはたくさんの行事やイベントに「最後」というフレーズがついてまわる。最後

ラーにくいこめてきた。

しかし、自分たちの代になると先生は転勤してしまい、次の顧問がバスケット未経験者になってしまった。そこで私たちは県ベスト8という目標をかかげ、自分たちで話しあい、メニューや試合にでるメンバーを決めたりした。私は副キャプテンに選ばれ、試合にもスタメンで出るようになった。しかし、私はチームメイトに恵まれており、とても頼もしいエースがいたのであっさりベスト8に入った。そのためそこですべてチームの目標はベスト4になった。そのためにはエース以外がうまくならないとだめだった。私は前の先生に認めてもらった長所をのびし、更に苦手だった所も克服した。

三年の春からバスケット経験者の先生が顧問に来てくれて、更にチームとして強くなった。そして最後の大会、ベスト4をかけて挑んだ試合。まわりの評価に反し、前半は同点でとても接戦だった。しかし、私は足を釣って後半は出れなくなってしまう。そのまま負けてしまった。最初はおすごく後悔した。しかし、高校三年間のバスケット人生をふり返ると自然と後悔は消えていった。そう、充実していたのだ。楽しいチームメイト、尊敬できる先生に出会い、たくさんの経験からたくさんのことを学べた。

「最後」というのは何かが終わることではあるが、今ま

でを振り返るきっかけになる。それは私たちが一つのこと
に費やした時間を清算して自分たちの糧にしてくれる。だ
から私はバスケに費やした時間とそれによって学んだこと
を自信にして、これから立ちをはだかる受験という壁を乗り
越えてやろうと思う。

部活引退

岡山一宮高校三年 小竹守 花 恵

私は弓道部に所属している。先月、インターハイの出場
権をかけた県総体があった。団体でインターハイへ行ける
のは優勝した一校のみである。結論から言うと、私たち岡
山一宮高校女子は二位となりインターハイをあと一歩のと
ころで逃がした。そして三年はそのまま部活を引退した。
だから最初の一文は厳密に言うの間違いであり、正しくは
少し悲しいけど「所属していた。」なのである。入賞経験
のない私たちからすると上出来の結果のはずだった。しか
し全国が見えていただけにみんな悔し涙を流していた。私
が高校生活で最後に弓を引いた日は、楽しさと悔しさの両

体・個人ともにインターハイまであと一歩という悔しい結
果となった。しかし優秀で信頼できる後輩たちがきつとこ
の悔しさをはらしてくれるだろう。期待してるし、一番に
応援している、頑張ってください。

「あと五カ月」

岡山操山高校三年 佐 伯 吏咲子

センター試験まで半年をきり、残すとこあと五カ月とな
った。三年生になって半年経ち今までの自分を振り返って
みた。やる気のある時とない時とでムラがあり、それに伴
い勉強時間もムラができるという過ごし方であった。とに
かくこのままでは志望校に合格できないと思い、根本的
な気持ちの部分での変化が必要であると考えた。それは、
「自分ができる」と思うことであった。どうせ自分だから、
もしかしたら落ちるかも、というマイナスの方向を頭に浮
かべながら勉強をしていた。やる気がない時に自分を自分
で立て直せなかったのもこの心持ちが原因だと思った。受
験は孤独の戦いであるから、点数に伸び悩んで落ち込んだ

方がいっぱいの日だった。

私は団体で落ちをしている。あまり知られていないが、
弓道の団体にもポジションのようなものがある。団体の五
人のうち、最後に弓を引くのが落ちであり重要な位置であ
る。私ははじめての試合から団体の公式戦ではずっと落ち
をしている。落ちは最後に一人残るわけだから度胸がいる
と言われている。しかし私は極度の緊張しいで上がり症で
あり試合の直前は手汗と足のふるえが止まらないような人
間である。そんな奴が落ちができるのかと言われるかもしれ
ないが、私は落ちが好きだ。私は緊張しいで上がり症だ
が、最後の矢のとき周りの人がみんな自分を見ていると思
うと興奮して「やってやろう」と思うし、広い道場で一人
で弓を引く瞬間は最高に気持ち良い。そのおかげか最後の
矢の中は少しだけ良い。私は大学でも弓道が続けるつも
りだ。さつきも言ったが落ちは重要な位置である。だから
大学でも落ちを任されるような選手になるのが大学に行っ
てからの目標だ。そのため今はひたすら勉強勉強勉強だ。
苦しいけど目標とは偉大であり苦しみ以上のやる気をくれ
る。まずは大学合格へ向けて日々努力していきたい。

余談だが、個人戦では男子の後輩が三位となった。しか
し個人は二位までがインターハイ出場となるので惜しくも
インターハイを逃がした。今回の大会は学校としては団

り、勉強に疲れた時に、いかに自分で自分を励まし奮い立
たせることができるかが、これからの五カ月で大切になっ
ていくと思う。

「信じることですべてが始まる」と、私の好きな絢香さ
んの曲にある。この歌詞のように自分の可能性を感じるこ
とで受験勉強へのやる気持続に繋げていきたい。そして、
自分を信じて結果を必ず出していきたい。

課外活動について

津山高校三年 産 本 龍

偉そうな物言いになりますがお許しくださいますようお
ねがいします。今回のやまびこはほぼ全ての課外活動が終
了したタイミングでの執筆となるので、そのことについて
書かせていただくかと思います。

私の高校には、高校生活が上手く行っている人と、そう
でない人の二種類がいますが、私はわりかし上手く行って
いる方だと思います（ここでの上手く行っている人という
のは、成績が概ね右上がりであり、なおかつそこそこ人生

を楽しめている人を指します)。ここで、この二グループの人々の相違点を考えると、やはりそれは課外活動の差かな、と私は思います。

私は、一見矛盾しているようですが、課外活動もメインでこなしていくべき課題の一つかと考えています(ここでいう課外活動とは、成績に影響しない活動のことです)。その理由は最終氷期まで遡ります。当時、地中海沿岸の冬は、現在の北極並みの厳しさだったといえます。そこで私達の祖先は頭脳を発達させ、イノベイションを生み出しました。ここで言及されるべきは主体性と本気度かと思いません。では、どのようにしてこの二つの要素が、課外活動と絡んでくるのでしょうか。

課外活動(特にカリキュラムに含まれないもの)を、受動的に行うことは不可能です。そして、自ら主体的に選んだ活動に本気で取組まない人はほほいませぬ。なぜなら、そうでないと、自分の選択の意味を無に帰すことになりまますから。そういう意味では、課外活動イコール氷期の私達の先祖の行動と言えなくはないでしょう。つまり課外活動に積極的な人はイノベイティブなわけです。

ここで多くの人が誤解していることがあります。それはイノベイティブな人が課外活動に積極的である、と考えることです。ここで注意すべきは、この命題は逆もまた成り

立つという事実です。すなわち、課外活動に積極的であればイノベイティブになれる、ということですが、ここまでの話から、イノベイティブな人イコール主体的に本気で物事に取組む人という関係が成り立ちます。つまり何が言いたいかというと、課外活動に積極的になれば、イノベイティブになり、従って平時の活動にも本気で取組める、ということですが。

しかしここに大きな落とし穴があります。この高校生活勝利の方程式には定義域が存在するのです。この公式は、課外活動と平時の活動を両方十分に行えるときにしか成り立ちません。ですがそのことにさえ注意すれば、きっと高校生活は上手く行くと思います。

ここでこう考える人もいるかもしれませんが、元々イノベイティブな人は、課外活動を行う必要はないのではないかと。確かに、それで上手く行く人もいます。ですが彼らは、課外活動を行っていないわけではありません。かつてしていたか、もしくは平時の活動を、もはや課外活動であると感じ放してよいレベルでこなしているかのどちらかです。しかし前者はともかく、後者はそうそういるものではありません。やはり私は、両方の活動にバランス良く取組むことをお勧めします。

私は、忙しさだけなら、高校内ならトップであった自信

があります。今年三月まで寮から自宅付近の塾に通い、生徒会長、弓道部副部长、副寮長、理数科課題研究干し肉研究会会長を務め、参加可能な研修にも全て参加しました。

本気で取組んだ証として、六年間お世話になった塾の恩師には涙と共に送り出させていただきましたし、先生方の推薦を受け、送辞を読ませていただいたり、弓道では最後の最後で中国大会出場、課題研究でも校内一位に輝き、先日行われた全国大会では大会屈指のグッジョブシールをいただきました。同時に最新の実テでは、今までの最高順位を取ることができました。これは私が凄いだとかそういう話ではありません。本気で取組む限り、忙しければ忙しいほど、人は成長できるという、私の持論の結果でしかなく、自分で率先して証明を行おうとしたのです。この理論の裏付けとして付け加えますが、勉強の邪魔になるかとも思い、活動を敬遠した人ほど、かえって成績を落としやすい傾向があります。

途中から完全に勉強の話になってしまいましたが、私が言いたいことはもう一つあります。それは課外活動の魅力を知ってほしいということです。つい最近の話になりますが、私は高校弓道生活最後の日を、中国大会という形で迎えました。もともと早く出場できていれば、と強く後悔しました。異様な緊張感、人々の熱気、的を射抜く度起こる、

会場を割らんばかりの歓声。それはもう、出身地の誇りかけた県同士の戦争でした。アレをもっと早く経験できていれば、さらなる高みに届いたかもしれません。また、課題研究の全国発表では、私達は沖繩の露商ばりのマーケットインク戦略で、視聴者及びグッジョブシールを乱獲していましたが、時たま自分から聞きに来て下さるお客さんもあり、認知に伴う愛というか、人生の喜びのようなものを感じました。

課外活動は、自分を高めてくれるだけでなく、単純に面白い活動だと思います。ぜひ残りの高校生活、積極的に参加してみてください。

あと色々偉そうなことを書きましたが、そもそも愛からないと今までのものは何だったんだという話になりますので、しっかり勉強したいと思います。応援よろしくお願います。

楽しいこと

岡山朝日高校三年 植本圭祐

部活も既に引退をし、勉強ばかりの毎日が続いています。友達との会話も勉強や進路の話が多くなりました。成績に関して、私は依然として未熟です。残り時間は少ないですが、志望校に合格するために、頑張っています。

さて、確かに忙しい毎日を過ごしていますが、息抜きも大切だと思います。今回はその話をしようと思います。定期テストや模試がある時に、その最終日に友達を誘って学校でテニスをすることがあります。勿論、競技としてはなく、遊戯としてです。本当に運動をして汗を流すとても気持ちがいいです。友達とふざけながら、笑いあっています。好きなようにして時間を過ごす事でストレスの発散になります。それに何故だかとても心に余裕が生まれるような気がします。上手く伝えられている自信はありませんが、こういう時間は本当に私の勉強の励みになっています。また、時間に余裕がないからこそ、私は時間がゆっくり流れることを楽しむようにしています。本音を言えば、携帯端末でしたくはないのですが、将棋のアプリを使って、将棋

をしています。久しくしていないものですから、全盛期に比べると甚だ劣りますが、それでも二時間くらい本気でしています。ちなみにあまり勝ってません。

再度確認しておきますが、私は決して余裕がある訳ではありません。それに見栄を張っている訳でもありません。ただ、たまには好きなことをしたいだけなのです。過度な息抜きは危険ですが、適度な息抜きはやる気を高めてくれます。とは言え、これからはもっとそんな時間も減るのだろうと思うと、やや寂しい気持ちがあります。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金をありがとうございます。この恩を忘れずに、日々精進します。

陸上は人生そのものだ

岡山操山高校三年 杉岡大輝

今年の六月、私は中学から合わせて六年間続けてきた陸上を引退した。

私の専門種目は四百メートルだ。何故この種目を選んだのか、実は私もよく分からない。なんといってもこの種目、

とにかくきつい。終わってから命の危険を感じたのはこの競技だけである。ただ私はこの種目が好きだ。どれほど練習がたっても、走り終わってもう辞めようと思っても、次の瞬間にはまた走りたくなる。そんな魅力が四百にはある。努力が報われることを教えてくれたのも四百だ。とにかく速くなりたくて必死に練習をした。昨年五十二秒だったベストが五十秒になった。最終的に県総体準決勝で負けてしまったが、努力を重ねることで結果は出ると教えてくれた。

四百と並んで私が好きな種目がある。それはリレーだ。操山のリレーメンバーは私を含め誰一人として県総体で百メートル決勝に行けていない。しかしリレーはそんな単純に足の速さだけで勝負は決まらない。だから私たち操山のリレーチームは県で六位に入り、ギリギリだが、中国大会の切符を手にすることができたのだ。一人一人の走力で劣っている。バトンパス、いわばチームの結束力で勝つことのできる競技。それがリレーだと私は考えている。そんなロマンあふれる競技が私は好きである。

最後に多くの人々に支えられて何年も陸上を続けてこれたということに感謝したい。人間は一人で生きることができない。親、仲間、指導者、様々な人に支えられて生きている。陸上も同じ。常に応援し続けてくれた母、世界一

のチーム操山、先生、本当に多くの人々に支えてもらってここまでこられた。私にとって陸上は何なのか。それは人生そのものである。

「受験生」

倉敷古城池高校三年 小西 菖

この夏は勝負の夏だ、と先生達に散々言われてきた。でも自分は受験生という自覚があまりなく、やる気になれなかった。勉強をしていないだけあって、模試の成績は下がってばかりだった。これではやばいと思い、夏の途中から必死に勉強をした。毎日毎日勉強してゆうわけにはいかなかった。一日これとこれは絶対しよう決めて集中力が続く限りし、集中力が途切れたら、友達と遊んだりメリハリをつけて夏休みを過ごした。

この夏で自分が見つけた勉強方法をこれからの受験勉強で生かせるようにしていきたいと思う。また、九月になって藤花祭があり、最後の行事が終わったのでまた気をひきしめ直して学校も勉強も頑張っていきたいと思う。一月の

2017 夏期研修会日記 < その1 >

平成 29 年 8 月 10 日～12 日におこなわれた宿泊研修の内容を紹介します。

8月10日(木)

閑谷学校
入所式
みんなわくわくドキドキ
緊張の中、スタートしました。



体験学習「ブランドウォーク」
目の見えない人の気持ちになって歩くこと、
寄り添うことを体験しました。



講和
修養団 根岸先生より講和をして頂きました。
難しい話もありましたが学びがたくさん!



レク&交歓会
レクリエーションと交歓会で
親睦を深めました。



8月11日(金)

ラジオ体操
気持ちのよい空気の中のラジオ体操で
目が覚めました!



みんなで食べるとご飯も美味しかった!!



八正会 HP にも掲載しています。 <http://www.hasshoukai.or.jp>

センター試験までに、自分の学力を伸ばして、自分の行きたい大学に行けるよう努力していきたい。

平成29年度 夏期研修会日程表

公益財団法人 八正会

8月10日(木)		8月11日(金)		8月12日(土)	
		6:30	起床	6:30	起床
		7:00	朝のつどい(つどいの広場)	7:00	朝のつどい(つどいの広場)
		7:30	朝食	7:30	朝食
8:50	岡山駅市営駅南駐車場 集合	8:20	清掃	8:20	清掃
				8:50	部屋点検
9:00	バス出発 閑谷学校へ	9:00	ディベートについて 講師 西口先生	9:00	ボランティア活動
10:30	入所式(視聴覚室)	10:00	グループ討議 (視聴覚室)	10:00	備前焼体験 (視聴覚室)
11:00	修養団 根岸先生	11:00			
11:30	講話・実習 (視聴覚室)			12:10	昼食
12:15	昼食	12:15	昼食		
13:00	修養団 根岸先生 体験学習 講話 (視聴覚室)	13:00	ディベート (視聴覚室)	13:00	感想文 (視聴覚室)
				14:00	退所式(視聴覚室)
				14:30	閑谷学校、出発
16:00	スタンツ話し合い (第3・4・5研修室)	16:00	スタンツ話し合い (視聴覚室)	16:00	岡山着 解散
17:45	夕食	17:45	夕食		
18:30	レク&交歓会 (第3・4・5研修室)	18:30	レク&スタンツ発表 (第3・4・5研修室)		
		21:00	入浴		
21:30	入浴				
22:00	就寝	22:00	就寝		

2017 夏期研修会日記<その2>

8月11日(金)

ディベートテーマ 「天皇陛下の生前退位を認めるべき」は 是か否か

いよいよ恒例のディベートです。
リーダー中心にみんなで話し合い、
討議に備えました。



スタンツ発表
今年も楽しいスタンツばかりで
新入生もおいしい味出していました!



討論開始。
立論⇒反対尋問⇒最終弁論と
お互いの主張ができました。



どのチームも最高の演技でした。
各賞が表彰されました。



8月12日(土)

ボランティア活動
恒例の「石橋磨き」
汚れが落ちて達成感を味わいました。



初めて参加したメンバーも
帰る頃にはすっかり仲良しになりました。

備前焼体験
作りたいものを形にする作業は
とても楽しかったです。



OBOGの皆さん、参加していただき
ありがとうございました。
来年もぜひ来て下さいね。
待ってます!!

夏期研修を終えて

清心女子高校一年 杉 岡 由香子

八正会に入って初めての夏休み研究でした。朝バスに乗った時はとても緊張していました。笑顔で話しかけよう心がけていたのですが、たくさんの人と仲良くなることができなくて嬉しかったです。根岸先生の講話は礼法・作法についてでした。私が普段通っている高校はカトリックの学校なので、仏教などの和の文化の教えはありません。講話を聴くと心が洗われたように、すっきりと清々しい気持ちになりました。日本人は思い合う心、信じ合う心、感謝する心を重んじているのだなと改めて思うことができました。この三つの心は世界共通で重要であると思います。デイベートを本格的にするのは初めてでした。テーマが天皇陛下の生前退位については是か否かという非常に高度なものでした。反対尋問は少しけんか腰な雰囲気だったので怖かったです。慣れなければいけないなと思いました。その時にふと、安倍首相は毎回野党からの鋭い質問によく答えているなど少し関心しました。トップバッターで立論発表をして緊張しましたが焦らず発表ができました。もう少し

ってもいい？」と言ってくれました。話はずみ、とても楽しい移動時間でした。

もし山梨さんが声をかけてくれなかったら、私は移動時間をただ寝て過ごし、思い出に残ることもなかったと思います。その思い出は、山梨さんの知らない人にも声をかける積極性があってできたものです。

二つ目は、協力することです。

例えば食事の時、自然とお皿を集めていました。当たり前なことではありますが、とてもすごいと思いました。

そして、お風呂の時もです。シャワーの数は多くなく、全員一緒には使えませんでした。その時、ほとんどの場所で「二人で使う？」など声をかけ、二人交互に使っていました。

もし一人ずつ使っていたら、倍の時間がかかっていたと思います。会ってからのたった一日弱しか経っていないのにそこまで協力するのはなかなか難しい事だと思えます。

今回の研修で、私は積極性と協力の大切さを学びました。積極性というのは、将来どんな道に進むとしても、とても重要なことだと思います。積極的に行動したことで、今回の研修のような学びの場を、私は見つけることができました。積極的に行動することは、自分の進める道を増やすことも、より良くすることもできる、とても大切なことだ

堂々と発表をすれば良かったです。

スタンプは本当に楽しかったです。チームワークも良く、何しろ先輩が本当に優しかったことが他のチームよりも勝っている自信があります。短い練習時間で完成度の高いスタンプができてよかったです。

その他にも、様々な体験ができてとてもありがたかったです。そして、人とのコミュニケーションをたくさんとることの大切さを学びました。先輩方のおかげで本当に三日間楽しいことしかありませんでした。たくさん迷惑をかけたと思いますが、本当にありがとうございました。

夏期研修を終えて

岡山工業高校一年 黒 田 裕 希

夏期研修を終えて、私は二つのことを学べたと思います。一つ目は、積極性です。

最初にバスに乗った時、席には空気がたくさんありました。知り合いがいなかった私は、閑谷学校に着くまで寝ようと思っていました。しかし、その時山梨さんが「隣、座

と思います。

だから私は、今回ここで学んだことを忘れず、自分の将来への糧として前に進んで行きたいと思います。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校一年 山 梨 有 希

四月にあった集まりでの一年生の自己紹介にかた苦しい印象があったので、あまり仲良くなれないかな、と心配していたのですが、皆も私と同様に緊張していただけみたいで、明るく思いやりのある良い仲間でした。

デイベートやスタンプなどの、あまり経験しないようなことがあったので、少し重い気持ちで今回の研修に臨んできたのですが、間違えることを恐れずに意見を言うことができる雰囲気の中で取り組むことができたので、私も、周りの皆ものびのびとできたのかなと思います。

そういった雰囲気作りはやはり社会に出たときに、自分でやらなければならない必須項目であると思うので、こういった研修を受けることで、少しずつ力をつけていき

いと思います。また、社会で必要な力とは何なのかを、学校の中だけでなくて、広い視野をもって見つめ直そうと思いました。ディベートの講師の方が、高校、大学で習うことは社会では役立たないとおっしゃっていました。なので私は、この六年間は、勉強をただひたすらする時間なのではなく、将来すべきことをみいだし準備期間なのだと思います。その六年間ただ考えるところに訳にもいきませんから、直接的には役に立たない勉強をすることによって、やりたいことを見つけるヒントの破片を拾っていったり、考える力を身に付けたり、テストで良い点を取るために努力する粘り強さなどを磨いていくことができるのだと思います。

この作文を見て分かる通り、語彙力など、勉強が不十分なことが見てとれると思いますので、とりあえず恥ずかしくないように勉強します。

夏期研修を終えて

就実高校一年 酒井美絵

今回、この夏期研修で五つの活動をしました。それぞれ

体験した中で、印象に残っている活動があります。

まず最初に、修養団の根岸先生の講話です。座り方だったり、あいさつの仕方を教えていただきました。自分の知らないお話ばかりだったので、とても勉強になりました。ブラインドウォークでは、きちんとサインを決めてお互いにそれを理解しておく事がとても大切だと思いました。

もう一つはディベートです。ディベートというものは初めてしたので、とても緊張しましたが、班のみなさんと協力して話し合うことができました。一つのテーマについて大勢で討論する事は滅多にないので、いい機会になりました。しかし、反省しなければいけないところがあります。反対尋問で指名された時、答えが短かったことです。もう少し、相手が納得いく言葉を返せたら良かったなと思いました。今回のこの失敗を、来年は絶対にしないように気をつけます。

最後は、スタンツです。班のみんなで意見を出し合ったり、一生懸命練習した結果、見事一位を獲得することができました。とても嬉しかったです。特に、ネタを考えて下さったり、アドバイスを下さった先輩方。とても感謝しています。おかげで、とてもいい思い出になりました。同級生のみんなとも仲良くなれて、充実した三日間を過ごすことができました。三年生の先輩方は今回で最後になりますが、

教わったことを次の八正会で生かしたいと思っています。

八正会夏期研修を終えて

岡山芳泉高校一年 近藤玲海

この三日間の八正会夏期研修を終えようとしている中で一番に思うことは「楽しかった!」ということですよ。

最初は「友達ができるか」「ディベートは上手くできるか。」など不安ばかりで、楽しみなんてこれっぽっちもありませんでした。しかし、時間が経つうちに周りの人達とも仲良くなれ、どの活動も楽しく過ごすことができました。また、研修では様々な活動を通して、沢山のことを学ばせていただきました。それらの活動の中で特に印象に残っている活動は、ディベートです。ディベートという活動を一度もしたことがなく、とても不安でした。しかし、先輩方が優しくアドバイスをしてくださったり、助けてくださったりしてくれたおかげで、大きな失敗もすることなく、自分の考えをきちんと相手に伝えることができました。自分で言うのも恥ずかしいですが、急に当てられると焦って、

自分の考えを上手く言葉にして伝えることのできない私にとって、本当に大きな成長だと思っています。今回の出来事や境にもっともっと自分の苦手と思うことを克服していきたいと思っています。

そして、反対に反省点も多くあります。一番の反省点は、スタンツです。私達のグループは他のグループよりも練習をしていなかったのもあり、本番はぐだぐだになってしまいました。ですから、来年参加する時は、もっと練習をして、面白いスタンツを創りあげていきたいです。

最後になりましたが、この三日間の研修でお世話をしてくださった方々、本当にありがとうございました。

夏期研修を終えて

倉敷青陵高校一年 宇田川桃佳

初めての夏期研修が終わりました。この三日間のことを振り返りながら作文を書きます。

初日は、閑谷学校に到着後に修養団の根岸先生の講話と体験学習のブラインドウォークがありました。講話は、蓮

沼門三氏の話や、幸せの種まき運動の話が印象的でした。ブラインドウォークは、目が見えていない相手に対して言葉を使わずに「進む」「止まる」「段差がある」などを伝えるのがとても難しかったです。目の不自由な人の体験や、その人をどう案内すれば良いのかが分かり、とても勉強になりました。

二日目は、ディベートとスタンツがありました。ディベートでは「天皇陛下の生前退位を認めるべき」の是非でした。私の班は肯定側になり、各自で持ってきた資料や用意された新聞を基に班で協力して取り組みました。反対尋問の対策と最終弁論の原稿を考えるのは本当に大変で、「やりたくない」「家に帰りたい」と思いましたが、皇室について考える良いきっかけになりました。スタンツは班でお笑いをやりました。OBの先輩にも協力して頂き何度も練習したので成功して良かったです。

三日目は、備前焼体験がありました。私はお皿と箸置きを作りました。陶芸をするのは小学生以来で久々でしたが、とても楽しかったです。先生のおかげで良い作品を作ることができたので、完成を楽しみにしています。

研修に参加する前は同じ学校の同級生がいないのでとても不安でした。しかし、参加してみると同級生の女子達とはすぐに打ちとけたし、班の先輩方も優しく安心してしま

を発表する担当となりました。私は出来るだけ目配せをして、明るく話すことを心がけました。結果は負けでしたが、普段出来ない貴重な経験することが出来ました。

そして最後に、会話をすることの大切さを改めて学ぶことが出来ました。私は今回、どうせ誰とも話せないし、仲良くなれないと思っていて渋々この研修に参加しました。しかし、色々と話しかけてくれて段々とうちとけることが出来ました。また先輩方とも仲良くなれました。一番最初の作文で、年に四回ある研修で、人見知りを克服したいという風に書きました。しかし、ほとんど一回で克服出来たと思います。だから今回この研修に参加して本当に色々なものが得られてよかったです。これからの研修も出来る限り参加して、もっと色々な人と話せるようになりたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校一年 山川 達雄

私の夏期研修は、吉永駅に行くことから始まった。他の

た。また、いつも部屋に先輩方が遊びに来て下さり、色々な話のできたのでとても楽しかったです。来年以降も研修に参加できたらいいなあと思いました。

夏期研修を終えて

岡山一宮高校一年 有村 真優

私はこの研修を通して様々なことを学ぶことが出来ました。

一つ目は修養団の根岸先生からの講話の内容から学びました。それは、人の心を動かすにはまずは自分から行動しなくてはならないということです。しかしその行動をちょっとしたからといって何か変わるわけではありません。誰に何と言われても自分の信念を曲げず継続してこそ何かが変わる可能性が出てくるのです。努力を継続することの差はとても大きいと改めて感じるようになりました。

二つ目はディベートから学びました。私自身ディベートをするのは初めてでかなり、とまどっていたのですが、一緒の班の先輩が色々教えてくださいました。そして立論

奨学生より遅れて研修に参加する私は、吉永駅に一人で行かなければならなかった。岡山駅から吉永駅に行くまでの時間は、とても長い。研修に参加している先生方のおかげで吉永駅につき、そこから閑谷学校に行くことができた。先生方には、とても感謝をしています。

ここからは研修であった興味深いできごとを、それぞれみだして分けて、書いていきたいと思います。

—ディベート—

「ディベートをする」ことは、私にとって初めての経験でした。人の前で自分の意見をその場で考えて話すことはとても難しく、良い経験になりました。

—スタンツ—

スタンツは、この研修で最大の山場だったと私は思う。二日間という短い期間に、何をするか考え、それを練習しなければならぬ。今、様々な学習の場で大切だといわれているコミュニケーション能力がスタンツには必要だと思つた。先輩方と意見を出し合い、それを演じる事はとても難しい事だったが、コミュニケーション能力を高める良い経験だった。

—備前焼体験—

これも、私にとっては初めての体験だったので、とても興味深かった。講師の方が前で手際良く備前焼を作ってい

たので、簡単そうだなと思ったが、とても難しかった。焼物作り程、見ることにすることとの差を感じるものは無いと私は思う。そのことを知れたので、良い経験になった。

この研修は、とても楽しい研修だった。初めての経験もたくさんあり、良い研修だった。最後に、八正会の先生方、三日間ありがとうございました。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校一年 中村 優斗

僕は八正会の研修にそもそも初参加だったので、今回、この三日間は（特に最初の二日間）は緊張していたし、不安だった。

バスでここまで来たのだが、道中は居眠りをしたり、日下先輩と話したりした。少々緊張きみであった。色々と話しかけてもらえたので感謝している。ありがとうございました。

ここへ来たらず講話を聞いたと記憶している。修養団という団体の方の講話だ。先生（その人）は宗教ではない

夏期研修を終えて

岡山朝日高校一年 守時 明信

今回の夏期研修で僕は、少し遅れて参加することになっていた。閑谷に着いたとき、皆は、スタンプの話し合いをしていた。知っている人はいないし、僕は、人と話すのが苦手なので、どうしていいかわからないままその場にいた。しかし、班の人たちがとても優しくおかげでその時の状況を理解し、話に参加できるようになり、とても助かった。初めての夏期研修で、色々とまどうことがあったが、そのたびに、他の人に助けってもらい、楽しく過ごすことができた。

僕は今回初めてデイベートやスタンプをしたが、デイベートでは、準備の大変さや難しさ、対応能力の重要性に気づくことができた。また、それを極めるとどんどん楽しくなりそうだなと思った。スタンプでは、他の先輩方にまかせっきりになってしまったが、短い時間で内容を決め、練習するということの難しさを知ることができた。僕の班は、直前に内容が決まったので練習する時間もなく、一発本番でスタンプに臨むことになったが、楽しくすることができ

ので安心して下さいと言ったが、話の前半は怪しいもんだと思いつながら聴いていたのは本当のことである。後半は真面目に聴いた。

まあ後他には、二日目に突入するがデイベートも印象にある。これは、準備の段階から僕は怠けていたので、全くダメだったと思う。

二日目は劇とかコントとか発表するのもあったしとても印象に残っている。優勝できたからだ。こんなことを言っでは同じ班の他の人に怒られそうだが、どこがそんなに良かったのかよく分からないが、素直にうれしい。開始直前まで完成していなかったのだ。

三日目は施設周辺を掃除したのと備前焼を作った。備前焼のは、よく訳の分からない気持ち悪いオブジェを作ったというかそれになってしまった。でも自分の中では出来上がりを楽しみにしていて、気に入った仕上がりだったら家に飾ろうと思っている。

これでほとんど全て終わったので安心していい。どれもとても良い経験になった。

ただ、一回や二回、練習ができていたら、もっと楽しいスタンプになったろうなと思った。

特にすることがなく、ひまだったときも、先輩方やOBの大西さんのおかげでも楽しく過ごすことができた。ご飯はどれもおいしかったし、夜もぐっすり寝ることができてよかった。

最初くる前は、どうしようか不安だったが、実際にみると、とても楽しかった。今回の研修で、他の人と交流することができたし、デイベートやスタンプなど、来年へつながることもたくさんできたので、とても良い思い出になったし、良い経験になった。ただ一つ少しだけ残念だったのが、「スポーツをするから体育館シューズが絶対必要」と書いてあったはずなのに、スポーツらしいスポーツができなかったことだ。でも、たくさん考えてくれていたレクは、楽しかったのでよかった。

今回学んだことを活かしながら、これからの集まりにもどんどん参加していきたい。

今回はたくさんさんの良い思い出を本当にありがとうございました。

夏期研修を終えて

倉敷中央高校二年 片山 歩

今年は何日から参加することができた。昨年は部活のこともあって二日目から参加させてもらった。昨年の初日は野外炊事をしたと聞いた。今年は礼法作法について学んだ。普段は正座などをしないけれど、そういう機会があったとすると、今まで正しいと思っていたことが違っていたということに気づいた。とても学ぶことが多かった。

ディベートでは、昨年から一つ上の学年になってみると昨年思っていたことと、今年思ったことは違った。今年は何の中にも一人しか三年の先輩がいなくて正直不安だった。でも、思っていたよりも一年生が積極的に会話にも参加してくれて、とても進めやすかったし、有難かった。私は、今年あまり発言をしなかったので来年は頑張りたい。スタンツは二位でよくできたと思う。お笑いをした。はじめはやる気ではなかったけれど、やっぱりここでも一年生の元気パワーに動かされた。終始、笑っていて本当に楽しかった。

備前焼体験は人生で二度目だった。一度目は小学六年の

も学校も違うので色々な事をうまくやっていけるか不安だったのですが、スタンツもレクも一位をもらえました。また班の活動で三年生の偉大さに気づけました。

先輩は、レクでもディベートでも班を、まとめてくださり、スタンツでは、一番セリフが多くふっ切らないとできないブルゾンちえみをやってくださいました。

来年は、自分たちが三年生になるので、先輩みたいになりたいと思います。

今回の研修では、前回よりも皆との距離も縮まり、楽しくできたと思います。また、目を隠して歩く体験や、ディベート、スタンツ、備前焼体験など、学校でも家でもできない体験をたくさんさせていただきました。さらに、先輩やOGの方と一緒に部屋だったおかげで自分の志望大学についての話も聞けたので、よかったです。この三日間、とても充実したものになりました。

来年は、受験生なのでどうなるかわかりませんが、できるだけ参加したいと思います。

ときにした。そのときはあまり何も考えずに置いて出て来ると変わってくる。コップ、自分の納得するものができた。出来上がりがすごく楽しみだ。

三日間のうちにこんなに貴重な体験をたくさんさせてもらった八正会に感謝しています。また来年も三日間参加できることを願っています。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校二年 笠 富花

部活のお盆休みと、この研修が少しかぶり、はじめは参加するのが少し嫌でした。その反面、久しぶりに会える友だちもいたし、備前焼体験もあったので、少し楽しみな気持ちもありました。

やっぱり、来てみると楽しくて、あっという間に三日間が過ぎてしまいました。今年も、先輩やOGの方と部屋が一緒だったので、仲よくなることができました。

一番楽しかったのは、班同士でバトルする時です。学年

夏期研修を終えて

就実高校二年 上原 志保

昨年とは違い、今回の夏期研修はとても楽しみにしていました。二年生なので二度目の参加ということと、初めて一年生と話すことができると思います、研修を待ち望んでいた程です。初日のバスで班分けの紙を見ると、三年生が一人で、二年生がリーダーを務めることになっている班もありました。私はその班の内の一人でした。夕食後のスタンツの話し合いでは、一年生と私達二年生のリーダーお互いが緊張していてあまり決めることができませんでした。

二日目になり、唯一の三年生の先輩が班に合流しました。ディベートを終えてからの合流だったので、スタンツの話し合いのときに初めてお会いしました。それまで決めていた内容より遥かにおもしろい話を考えてくださり、なおかつ班のみんなのやりたい小ネタをはさんでいる、とても良い劇の台本が出来ました。スタンツの結果は四班中の四位ということと最下位でしたが、本当に楽しくて、もう一度やりたいなと思いました。三年生の先輩方は、今回の研修で現役としては最後でした。そして次の夏期研修は私達が

今の三年生の立場になります。正直なところ、今の先輩方のように後輩のことを考えて行動できるか分かりません。また、OB・OGの方々のように周りに気を配ることもできないかもしれません。けれど、今回の夏期研修で見た先輩方の素晴らしい一面を忘れずに、来年の研修そして、普段の生活に生かせたいと思います。

夏期研修を終えて

美作高校二年 久保田 実歩

八正会の夏期研修を終えて思い出に残っていることは三つあります。

まず一つ目は修養団の目隠し体験です。私は福祉コースに所属していて、目隠しをする授業は受けたことがありますが、目隠しをして山道や、大きな段差などは初めてだったので、とても貴重な体験をすることができたと思います。声を出さずに相手に障害物を知らせるのはとても難しかったです。

次に二つ目はスタンツとレクです。一年生と初めてきち

んと話したり、三年生と仲良くなれたりしてとても楽しかったです。レクは班のみんなと協力してできたと思います。スタンツはリーダーが何をするかを、まとめてくれました。三つ目は備前焼体験です。初めて備前焼を作っても難しかったですが、それ以上にとっても楽しかったです。私はハニワを作りましたが、閑谷の方に「ハニワを作っている人を初めて見た。」と言われて、少しうれしかったです。できあがる年末がとても、待ちどおしいです。

今回の夏期研修で、みんなの仲がとても深まったと思います。次の研修にも参加したいと思います。

夏期研修を終えて

作陽高校二年 濱田 祐佳里

今回は二回目の夏期研修の参加だったので去年よりも不安がなく参加できました。三日間の感想を一言で言うのと、本当に楽しかったし、三年生の偉大さをすごく感じました。

二日目のデイベートでは、議題が天皇陛下についてだっ

たが、私はニュースをあまり見ないので生前退位の成り行きや、今後について理解できてなかったのですが、このデイベートを通じて知識も増え理解が深まりました。反対尋

問では、相手の質問の意味を理解し、それについて自分の意見を言わないといけないので深く理解できてないと難しいと思います。今回はあまり発言できなかったのですが、来年は討論できるようにがんばりたいです。

スタンツでは、なかなかやる事が決まらなかったけど、先輩がすごく引っぱって頑張ってくれ、一年生も、ノリが良くやってくれて本当に助かりました。来年、先輩のように出来る自信はありませんが頑張ろうと思います。

二年生になって一応、一年生から見たら、先輩という形にはなりますが、デイベートでもスタンツでも一年生の発言や行動に頼ってばかりで先輩らしいことはあまりしていません。でも、どの活動も班みんなが協力して、楽しくできてよかったです。来年は自分たち先輩のように周りに気を配ってまとめないといけないと考えると、本当にすごいなと感じました。少しでも近づけるように、来年も意味のある楽しい三日間になるように、今日までの三日間を来年の夏期研修に生かしたいと思います。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校二年 安井 絵里果

二度目の夏期研修。一年生るときよりは全然不安はなかったが、二年生になって自分に後輩ができるんだ！先輩として今回の研修に挑むんだ！しっかりしないと！という思いはもちろんあった。

私がこの研修で印象に残っているのは、やはりデイベートとスタンツだ。デイベートは「不安」と「緊張」この二つの思いしかなかった。毎度のことだがお題も『天皇陛下の生前退位を認めるべきである』は是か否か』と難しかった。昨年は正直言って先輩にまかせつきりでまったく何もできずイスに座っていただけだったが、今年はきちんと考えてお題について理解して挑むことができた。後輩の子の質問にちゃんと答えられなかったのは苦しかったが、班全員で協力して答えを見つけることが出来て嬉しかった。スタンツは、私の班は他の班よりも早く出し物を決めることができて、余裕をもって用意・練習が出来た。とてもテノポの早いコントだったので、練習しないと絶対うけなかつたと思う。スタンツ本番では思っていたよりうけたので

安心した。そして何より大西先輩というとても素晴らしい助っ人に、ツツコミ役という最も重要な役でコントに加わっていたいただき感謝しかありません。ありがとうございます！！

夏期研修を終えて感じたのは、昨年より少しは自分も成長したのではないかとということだ。来年もこんなふう感じられるように、成長した姿で来年を迎えられるように、一日一日を大切に過ごそうと思う。

夏期研修を終えて

岡山芳泉高校二年 栗山裕唯

昨年に続いて、私は三日間すべての研修に参加させていただきました。今回は三年生の人数が少なかったために、二年生の私がリーダーを務めることになり、非常に不安でした。昨年は先輩方に本当に助けられ、自分では頼りないだろう、と班のメンバーに申し訳なくりました。

それはスタンツの準備やディベートの間ずっと抱え込んでいました。下手なりに頑張って進行をしましたが、段取

りが良いとは言いがたく、四苦八苦しました。

二日目の夕方から先輩がいらっしや、スタンツの準備に加わっていたいただきました。そこで、先輩とは非常に偉大な存在なのだと思確認しました。来年自分がこの立場になれるとは到底思えないほど、そのリーダーシップに着いていくばかりです。

そのような反省ばかりが多く見られる研修会でしたが、得たものもたくさんあります。

修養団の根岸先生のお話は普段ではあまり考えないようなことばかりで、日々の生活を良くしていこうと思えるようになりまし。また、ディベートを通して視野を広げることと物事を多角から考えることの重要性を学び協調性を育てることができました。

去年と同じく収穫の多かったこの研修会で感じたことを、文化祭シーズンに入った学校生活へ上手く落とし込めたいなと思います。来年もぜひ三日間参加させていただきたいです。

夏期研修を終えて

美作高校二年 津本宥海

僕は三日間、八正会夏期研修に行ってきました。今回の研修は男子の人数が少なかったのでちょっと寂しかったです。一日目は修養団の根岸先生の講話でした。普段学校では学ばないことを聞いてとてもためになりました。また、ブラインドウォークでは、相手を信頼し最後まで信じて歩くことができたと思います。夜はレクをしました。このレクで班の仲が縮まった気がします。スタンツの話し合いでもみんなが積極的に参加して良かったと思います。

二日目はディベートをしました。テーマは天皇生前退位ということと普段考えないことだからとても自分のためになったと感じました。この日の最後はスタンツをしました。三班のメンバーに助っ人として大西さんを加えて発表しました。練習の成果が出て二位になったことは嬉しくて、やっって良かったと思いました。スタンツが終わってからはいろんな人と話したりして交流を楽しみました。違う学校の話を聞く機会はあまりないので良い経験になったと思います。

三日目は、備前焼体験をしました。土をこねる感覚が幼稚園の頃の泥だんごを作る感覚と似ていてどこか懐かしい感じがしました。

僕は今回の研修に参加することを楽しみにしていました。実際に参加してみてこの研修でしかできない体験や、この研修でしか学べないことがたくさんあり三日間楽しく充実した時間を過ごせたと思います。

来年は自分が三年の立場になるのもっと積極的に話をし、皆をまとめられるようになりたいと思いました。

夏期研修を終えて

岡山朝日高校二年 井上彪馬

今回の夏期研修で様々なことを学ぶことができました。僕は物事にとりかかるとか人が人と比べてとても遅く、何でも後回しにしてしまいます。その結果、研修前日の夜の十時頃までこの研修の存在を忘れていました。大急ぎでディベートや着替えの準備をして、研修当日の朝早くから学校まで上履きを取りに行くという大変な目に遭いました。

これを機に何でも後回しにする癖を直したいと思います。

一日目は、ブラインドウォークがとても印象に残っています。目を隠した状態で、パートナーと少しでも体が離れてしまうとすごく不安で歩くのに困りました。目の不自由な方たちはいつもこんな想いをしながら過ごしているのか、とても考えさせられました。

二日目のデイベートは、去年と比べると、話し合いによく参加できて、自分たちの主張や反駁など、ある程度準備できていたので、とても良かったと思います。スタンツは準備不足で悲惨な結果となりましたので、残念です。

三日目は、初めて備前焼きを作りました。不器用なので、上手くできなかったのですが、とても楽しく、貴重な体験ができたと思います。

今回も、自分から他人に積極的に話しかけることがなかなかできず、受け身になってしまうことがいくつかありました。今後はこれを直せるよう努力しようと思います。

夏期研修を終えて

津山高専二年 佐藤 海斗

夏期研修全体について書くとしてもグダグダしてしまうので、研修のメインであるデイベートに対象を絞って書こうと思います（昨年と同じくデイベートに絞って書いて気がします）。

今年のデイベートのテーマは「天皇陛下の生前退位を認めるべきか、べからざるか」でした。陛下のお気持ち表明があつた昨年夏以降、生前退位問題については侃々諤々の議論がなされてきました。昨年の夏期研修の直前、学校のテレビでお気持ち表明のビデオレターを観たことを覚えています。

研修二日目の朝から、班のメンバーでデイベートの準備を始めました。私たちの班は生前退位肯定派でした。研修前の下調べでは、世論の大多数が退位に賛成しているという情報を得ていました。しかし、退位肯定派の根拠は極めて抽象的で、デイベートで用いるには弱いものばかりでした（一般に、道徳的なことからは抽象的なものです）。

デイベートを諦める訳にもいかなかったので、無い頭をひね

って具体的な根拠を考えました。私は反対尋問の役目もあつたので、相手方、つまり否定側が主張してくると想定される意見を並べ、それに対する反論を考えろという作業もしなければなりませんでした。

大変な作業でしたが、それでもなんとかデイベート開始前には準備を整えることができました。本番では比較的スラスラと反対尋問ができて安堵しました。あまり人前で話すのは得意ではありませんが、明確な話す対象がいると大丈夫みたいです。

デイベートを終えての所感ですが、こういった活動をもっと学校教育に取り入れてはどうかと思いました。論理的に考える力はとても大切です。海外では高校でレトリック（修辞学）を教えるそうです。日本でも積極的に論理と修辞を教えてみたらどうでしょうか。

夏期研修を終えて

岡山操山高校三年 佐伯 吏咲子

三日間の夏期研修を終えた今、「来て良かったな」と

いう思いと達成感を感じた。私は一・二年の頃の夏期研修では、部活の関係で少しの時間しか参加できていなかった。三年生になったら三日間ともすべて参加しよう決めていたので、今年は全日参加で申し込みをした。二日目にあるデイベートと、スタンツが人前で話すことがあまり得意でない私にとって少し気が重く緊張していた。しかも三年生の女子が一・二日間は私一人であったことも重なり、「帰りたいなあ」と正直弱気だった。

しかし、研修が始まると三年で一人の私に気遣ってくれたのか、一・二年生の中の話に入った時にみんな笑顔で答えてくれたり、と八正会みんなの優しさを感じ弱気さが自然と消えていた。

また、修養団の体験実習でやったブラインドウォークでは、目の不自由な人をはじめ、介護を必要とされる方は、常に不安を感じていて、その不安をできるだけ和らげられるように介護側の小さな配慮が大切だと実感した。デイベート、スタンツでは班の全員で協力して何とか乗り越えて楽しかった。レク・スタンツ両方で一位を取り、たくさんのお菓子をもらったのは良い思い出になった。

三日間、普段はできない体験をさせてもらい、色々な学校・学年の人と交流できた事で日常では感じないことを感じれたり、自分の成長につながったと思う。研修をさせて

いただけたことに感謝し、受験勉強がつらくなったらこの研修を思い出して頑張ろうと思う。

夏期研修を終えて

岡山一宮高校三年 小竹守 花 恵

今回は私の三回目の夏期研修でした。私は去年の夏期研修は一日目で帰ったので、一年はもちろん、二年ともあまり面識がありませんでした。夏期研修は八正会の四つの研修の内でも盛り上がり仲が深まるので、他学年との交流を不安に思いながらも楽しみにしていました。一日目はオープンキャンパスとかぶってしまい行けなかったのですが、途中から来た私を温かくむかえてくださった八正会や閑谷学校のみなさん、ありがとうございます。

毎年恒例のスタンプでは時間が足りず準備不足だったこともあり、残念ながら最下位という結果となってしまいました。ですが何よりも本番のとき本人たちが楽しそうだったので結果と関係なく良かったと思います。他のグループのスタンプも見ていてとても楽しかったです。

夏期研修を終えて

岡山東商業高校三年 三宅 竜 矢

今回の夏期研修は、最後だったので全力で楽しもうと思っただ。でも、一日目は職場見学で、いけなかったので少し残念でした。

一日目は、職場見学で山陽マルナカで見学をし、今後の将来のためになるよう、そのお店の店長さんの話をしっかりと聞き、将来の進路のために、活用させたいと、思っています。

二日目は、僕は九時からの参加でした。たぶん人生最後のデイベートでは、テーマの「天皇陛下の生前退位について」のことにあまり事前に調べていませんでした。僕は生前退位についての賛成派の反対尋問の係でしたが、事前にあまり調べれていなかったため、反対尋問で質問する、材料もあまりなかったため苦労しました。デイベートの本番の反対尋問で質問をするときに、二年生の後輩がミスをしてしまい、もっと前準備のときにちゃんとうちあわせをすればよかったなど、思いました。最終的に、デイベートが終わったあとは、引き分けて終わりましたが、反対尋

今回は備前焼き作りの体験があり、ずっと何をつくらうかと考えていました。良いものが作れるか心配もあったのですが、なかなかの自信作ができました。私は小学四年生のとき社会見学で一回だけ備前焼きを作ったことがありました。今回つくったものと小学生のときつくったものでは圧倒的なクオリティの差があって自分自身の成長を感じました。できあがりは年末とのことですが、とても楽しみにしています。

また三年女子はもともと三人しかおらず、他学年と同じ部屋になります。今回も同様で二年と同じ部屋になりました。学年の差を越えて交流することができ、仲が深まったと思います。これは人数が少ないから経験することができたことで、何事にも良いことがあると感じました。このような機会があつて本当に良かったです。

最後になりましたが、今回も貴重な体験と多額の奨学金、ありがとうございます。

問の評価が高くてすごくびっくりしました。スタンプでは、一日目ですでに、ネタが決まっています、僕の知らないネタだったので、セリフを覚えるのが少しむずかしかったです。リハーサルするときにはネタの時間を計ってみるとだいたい一分ぐらいだったのでさすが本番でやってみるときんちょうでセリフを言う早さが早くなり三十秒ぐらいで終わってしまいました。

三日目の備前焼きは今回が初めてのことだったので湯のみを作りましたがうまくできませんでした。またあまったねん土でなにを作るかまよったあげく意味のない重りや、八面体のなにかを作りました。

今回の夏期研修は、三年間最後の夏期研修だったのでいまままでの、研修の中で最高でした。

夏期研修を終えて

岡山城東高校三年 青山 公 士

部活が忙しくて一、二年の頃は初日しか参加できなかったため、三年こそは全日程参加しようと思っていたが、オ

ープリンキャンパスとかぶってしまい、二日目からの参加と
なってしまうって残念だった。さらに、八正会の人たちはな
ぜかみんな個性が強く、話すとおもしろいのでなおさら初
日から参加できていればなあ、と思った。

西口先生の大学の話や部屋で聞いた大西先輩の話で早く
大学をでて社会人になりたいと思った反面世の中は厳しい
ものであると知ることができた。

デイベートでは二年男子の仲良しコンビが頑張ってくれ
たので、とてもやりやすかった。三年としてもう少し少な
かできたらよかったなと思う。

スタンプでは個性が強い人たちがとてもおもしろく、ど
の班も違ったジャンルでも楽しかった。

備前焼き作りでは備前市出身で小学校では毎年作ってい
たにもかかわらず、ど下手だったのでセンスが本当にない
んだなと思った。

もし都合があれば、またOBとして参加できればよいな
と思った。

夏期研修を終えて

津山高校三年 産本 龍

課題研究の全国発表があり、最後の数時間しか参加でき
ませんでした。それでも参加できて良かったと思います。
八時半過ぎにセンターに到着して、第二研修室あたりでう
ろうろしていると、誰だこいつといった視線を大量に浴び、
過剰摂取による中毒症状を起こしそうになっていると、慣
れ親しんだ同級生・一個下の後輩と出会い、彼らを血清と
することで何とか死なずに済みましたが、誰も知っている
人がいない状態でこれをやりますと、本気で人が死にかね
ませんので、どうか今後、特に一年生のケアはしっかり行
っていたいただきたいと思います。

冗談はさておき、同級生や後輩とは久々の再会となりま
したが、みんな私のことを覚えてくれていて、三日間一緒
に居たかのように接してくれました。もちろん掃除は最高
のアクティビティーでしたし、備前焼体験も非常に面白か
ったんですが、私にとっての今回の夏期研修の意義は、そ
れらの活動を通して、これまで育んできた友情の再確認が
できたことかなと思います。

高校生としては最後となる今回の夏期研修をこの様な形
で終えてしまうのは少々遺憾ですが、一応ですが三回とも
欠かさず出席できて良かったと思います。それら全てで、
かけがえのないものを入れることができました。残る
研修はあと二回となっていました。なるべく出席で
きるよう努力したいと思います。そして一生懸命勉強して、
恩を返す、と言うと一体お前は何を返すんだという話にな
りますが、そういう気持ちで、しっかり合格を取りに行こ
うと思います。

最後になりましたが、いつも多額の奨学金を下さりあり
がとうございます。八正会のおかげで、生活に困ることも
なく、健やかに勉強に励めております。どうか今後とも、
よろしくお願いいたします。

夏期研修を終えて

岡山県立大学保健福祉学部栄養学科四年

後藤 眞依

今年もOBとして研修に参加させていただき、本当にあ

りがとうございました。初日は少し不安そうな様子もあり
ましたが、デイベートやスタンプを通して交流を深めてい
く後輩の皆さんの笑顔を見ると、八正会での出会いって新
鮮だな〜としみじみ、思いました。また、人数が少ない中
で頑張るリーダーさんの姿にとっても感心し皆さんの成長を
感じました。振り返ると高校一年生のとき、初めて夏期研
修に参加した私は先輩の姿に驚き、三年生でここまででき
るかな…と不安で一杯でした。しかしながら二年生、三年
生と一生懸命取り組むことができたのは、八正会で様々な
人と交流し、私もやるぞ！という元気をもらったからだと
思います。(OBの今でも先輩方からお話や社会人として
のアドバイスをいただくことは多いです！) 後輩の皆さん
も八正会での出会いをこれからも大切に、そして周囲から
良い刺激を受け、与えることのできる人になってください。

研修一日目に、修養団の先生から、「幸福の種まき」の
お話がありました。私は後輩の皆さんは今まさにその途
中ではないかなと思います。部活動や勉強はもちろん、自
分の興味のあることを深めたり、将来を真剣に考え悩むこ
とも必要だと思えます。幸せは人によって様々ですが、今
できることに全力で取り組み、最後まであきらめないこと、
それはきっと皆さんの未来につながっていくと私は信じて
います。私も大学四年生になり、就職活動、卒業研究、国

家試験など悩むことも、楽しいこともたくさんありますが、皆さんと同じ気持ちで、これからも種まきにもうひと頑張りしていこうと思います。また元気な八正会の後輩の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています!! 本当にありがとうございます。

編集後記『地域協働とおそろいのTシャツ』

今夏の甲子園は猛暑の中、戦いも熱く繰り広げられ、私感としては、広陵高校の優勝かと期待したが、全国を盛り上げた準優勝も見事であった。甲子園の高校野球を見るたびに、おらが県の代表校を応援してしまうファンの方も多はず。地元や地域を愛するポリシーからは、選手・代表校の事は詳しく知らずとも、応援してしまうのだ。

今、岡山市では「中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～」と「岡山市地域協働学校」の二本柱で自立する子どもの育成を推進している。学校園・家庭・地域社会が連携し合って子どもを育てようというのだ。主体的な学びや確かな学力をつけるのは学校、そして家庭や地域社会の教育環境を充実させ、いじめや不登校児童生徒の出現率低下を目指している。一つのキーワードは地域協働だ。

岡山を愛し、おらが学校を愛する。その表れとして学校によっては、教職員がおそろいのTシャツ・ポロシャツを作っている所もある。教職員のバレーボールやバドミントン大会では学校ごとの色・デザインの異なるユニフォームでの戦いとなる。

例えば、吉備学区は犬養木堂の書『樹人』を背中にあしらったデザイン。わが学区はかわいい牛のデザインにローマ字の学区名を添えてといった具合だ。

ポロシャツを揃えたから何かが生まれるのか、は、定かではない。服装を揃えることで、気持ちを一つにし、教育実践をしていこうと意識を高めることにはつながるであろう。今年度の地域と学校の協働フォーラムの分科会でもこのポロシャツを地域の方々にも広げたらいいのでは、という意見もあった。まさにおらが村・おらが学区ポロシャツなのだ。地域活性化の観点からも学校が基点となることには間違いはない。日々精進である。

【血糖値は良くなったが、減量には失敗してるYUA】

発行責任者

落司量則

発行者

公益財団法人 八正会（トンボ育英事業団体）

郵便番号七〇〇―〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

株トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二一

印刷所

協同精版印刷株式会社

平成二十九年九月